

SHARP

取扱説明書（操作・設定編）

16ch ネットワーク・ビデオ・レコーダー



形名 YC-R162C

お買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ご使用前に、「安全上のご注意」を必ずお読みください。
この取扱説明書はいつでも見ることができる場所に必ず保存してください。

取扱説明書（操作・設定編）、及び、ソフトウェアは下記 URL
よりダウンロードすることができます。

<http://www.sharp.co.jp/business/security-camera/>

もくじ

1.	はじめに	7
2.	安全にお使いいただくために	11
3.	取り扱い上のお願い	19
4.	パネル概要	22
4.1	前面パネル	22
4.2	背面パネル	23
4.3	USB マウスの操作	24
5.	起動	25
5.1	NVR の起動	25
5.2	NVR のアクティベーション	26
5.3	ロック解除パターンによるログインの設定	28
5.4	システムへのログイン	29
5.4.1	ロック解除パターンによるログイン	29
5.4.2	パスワードによるログイン	30
5.5	セットアップウィザードによる簡単な基本設定	32
5.6	ネットワーク設定	39
5.7	システム操作	40
5.7.1	ログアウト	40
5.7.2	NVR のシャットダウン	40
5.7.3	NVR の再起動	40
6.	カメラ接続	42
6.1	ネットワークカメラの追加	42

6.1.1	ネットワークカメラの手動追加.....	42
6.1.2	ネットワークカメラの自動追加（プラグアンドプレイ）.....	44
6.2	PoE インターフェイスの設定.....	45
6.3	カスタマイズプロトコルの設定.....	47
7.	カメラ設定.....	49
7.1	OSD（オンスクリーンディスプレイ）設定.....	49
7.2	プライバシーマスクの設定.....	50
7.3	ビデオパラメータの設定.....	51
8.	ライブビュー.....	52
8.1	ライブビューの開始.....	52
8.1.1	デジタルズーム.....	53
8.1.2	パノラマ表示（魚眼画像拡張機能）.....	54
8.1.3	3D ポジショニング.....	55
8.1.4	キャプチャ.....	56
8.2	ターゲット検知.....	57
8.3	ライブビューの設定.....	58
8.4	ライブビューのレイアウト設定.....	59
8.5	カメラの自動切替設定.....	60
8.6	チャンネルゼロエンコーディングの設定.....	61
9.	PTZ コントロール.....	62
9.1	PTZ コントロール.....	62
9.2	PTZ パラメータの設定.....	63
9.3	PTZ プリセット、パトロールおよびパターンの設定.....	64

9.3.1	プリセットの設定	64
9.3.2	プリセットの呼び出し（コール）	65
9.3.3	パトロールの設定	65
9.3.4	パトロールの呼び出し（コール）	66
9.3.5	パターンの設定	67
9.3.6	区域スキャン制限の設定	68
9.3.7	区域スキャンの呼び出し	69
9.3.8	ワンタッチコントロール	70
9.4	その他の機能	71
10.	HDD 設定（HDD 冗長化）	73
11.	録画	75
12.	再生	77
13.	イベントおよびアラーム設定	78
13.1	監視スケジュールの設定	78
13.2	アラームアクションの設定	79
13.3	動体検知アラームの設定	81
13.4	ビデオロス（損失）アラームの設定	82
13.5	ビデオ干渉アラーム（タンパリングアラーム/或者カメラ妨害アラーム） の設定	83
13.6	センサアラームの設定	85
13.6.1	アラーム入力の設定	85
13.6.2	ワン(1)キー監視解除の設定	86
13.6.3	アラーム出力の設定	87

13.6.4	異常アラームの設定	88
13.7	アラームリンクアクションの設定	89
13.7.1	全画面モニタリングの自動切替設定	89
13.7.2	音声警報の設定	90
13.7.3	監視センター通報（使用できません）	90
13.7.4	Eメールリンクの設定	90
13.7.5	アラーム出力のトリガー	91
13.7.6	PTZリンクの設定	92
13.8	アラーム出力の手動起動およびクリア	93
14.	VCA イベントアラーム	94
14.1	顔検出	94
14.2	車両の検知（使用できません）	95
14.3	ライン横断検知（線のクロス検出）	95
14.4	エリア侵入検知	97
14.5	領域進入検知（検知区域入る）	99
14.6	領域退出検知（検知区域離れる）	100
14.7	放置手荷物検知	101
14.8	物体撤去検知	103
14.9	オーディオ異常検知	105
14.10	シーン急変検出	107
14.11	焦点ぼけ検出	108
15.	スマート解析	109

15.1	人物カウント.....	109
15.2	ヒートマップ.....	110
16.	ネットワーク設定	111
16.1	TCP/IP の設定.....	111
16.2	DDNS の設定	112
16.3	PPPoE の設定	113
16.4	NTP の設定	114
16.5	SNMP の設定	115
16.6	Eメールの設定.....	116
16.7	NAT の設定	118
16.8	ポートの設定.....	119
17.	一般システム設定	121
17.1	S. M. A. R. T. 検知.....	121
17.2	不良セクタ検知.....	122
17.3	ログファイルの検索とエクスポート.....	123
17.3.1	ログファイルの検索.....	123
17.3.2	ログファイルのエクスポート.....	125
17.4	IPカメラ設定ファイルのインポート/エクスポート	126
17.5	NVR設定ファイルのインポート/エクスポート	127
17.6	システムのアップグレード.....	129
17.6.1	ローカルバックアップによるアップグレード	129
17.6.2	FTPによるアップグレード.....	130

17.7	デフォルト設定の復元	131
18.	一般システム設定	132
18.1	一般設定	132
18.2	サマータイム設定	133
18.3	デバイスの設定	134
18.4	ユーザーアカウントの管理	135
18.5	ユーザーの追加	135
18.6	ユーザーに対する権限の設定	137
18.7	管理者ユーザーの編集	139
18.8	非管理者ユーザー（オペレーター/ゲスト）の編集	140
18.9	ユーザーの削除	141
18.10	POS 機能（未サポート）	142
19.	付録	143
19.1	仕様	143
19.2	トラブルシューティング	145
20.	お問い合わせ窓口	

1. はじめに

製品概要

本製品は、6TB のハードディスクを 2 台（合計 12TB）内蔵した、H. 265 対応 16ch ネットワーク・ビデオ・レコーダー（NVR）です。

2 台の内蔵ハードディスクを使ってデータを冗長化することができます。

【付属品】マウス、LAN ケーブル、電源ケーブル

取扱説明書について

本製品の取扱説明書は以下のような構成になっています。

- 取扱説明書 基本編：安全上のご注意、使用上、設置上のお願い事項について記載されています。
- 取扱説明書 操作・設定編（本書）：本製品を動かすソフトウェアの操作や設定方法について記載されています。

商標について

- Microsoft、Windows、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、この説明書に記載されている会社名・商品名は、各会社の商標または登録商標です。

著作権について

- 本製品に搭載のソフトウェアは著作物であり、著作権、著作者人格権などをはじめとする著作者等の権利が含まれており、これらの権利は著作権法により保護されています。ソフトウェアの全部または一部を複製、修正、あるいは改変したり、ハードウェアから分離したり、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング等を行わないでください。第三者にこのような行為をさせることも同様です。

個人情報保護について

- 本製品を使用したシステムで撮影された個人を識別できる情報は、「個人情報の保護に関する法律」で定められた「個人情報」に該当します。法律に従って、映像情報を適切にお取扱いください。
- 本製品を使用して記録された情報内容は、「個人情報」に該当する場合があります。本製品、または記録媒体が廃棄、譲渡、修理などで第三者に渡る場合には、その取り扱いを十分に注意してください。

ネットワークのセキュリティについて

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、お客様ご自身の責任で十分に行ってください。

セキュリティ対策を行わなかった結果、または、通信仕様上のやむを得ない事情によりデータ漏えいなどネットワークのセキュリティ上の問題が発生した場合、それによって生じたあらゆる損害に対し、弊社は一切の責任を負いかねます。

(対策例)

- ファイアウォールなどで安全性の確保されたネットワーク上で本製品を使用する。
- ユーザー名とパスワードを設定し、ログインできるユーザーを制限する。パスワードは定期的に変更する。
- パソコンが接続されているシステム上で本製品を使用する際は、コンピューターウイルスや不正プログラムの感染に対するチェックや駆除が定期的に行われていることを確認する。

プライバシー・肖像権について

本製品の設置およびご利用につきましては、お客様の責任で被写体のプライバシーの保護や肖像権などに十分配慮してください。被写体となった個人または団体などによるプライバシー侵害などを理由とするいかなる賠償請求やクレームなどに関し、弊社は一切の責任を負いません。




その他

- 本製品は、特定のエリアを対象に監視を行うための映像を得ることを目的に作られたものです。本製品単独で犯罪などを防止するものではありません。
- 本製品や記録メディアの故障もしくは不具合などにより録画ができなかった場合、これにより生じるお客様の損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。
- 本製品の故障や不具合を含む何らかの理由または原因により、映像が表示できないことによるお客様の損害、被害について、弊社は一切の責任を負いかねます。




- 記録メディアや外部ストレージなどに記録されたデータの消失および付随的損害（営業損失などの補償）などについて、弊社は一切の責任を負いかねます。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切の責任を負いかねます。
- 付属の電源コードは当該製品専用です。他の機器に使用しないでください。
- 海外では使用できません。本機を使用できるのは日本国内だけです。
- 本機は屋内使用専用です。

2. 安全にお使いいただくために



この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

 危険	人が死亡または重傷を負う恐れが高い内容を示しています。
 警告	人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。
 注意	人がけがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示しています。




図記号の意味は以下の通りです。







 禁止	<u>してはいけない</u> ことを表しています。
 分解禁止	<u>分解してはいけない</u> ことを表しています。
 指示	<u>しなければならない</u> ことを表しています。







危険







 禁止	高温になる場所（直射日光が当たる場所、暖房設備、ボイラーなどのそば）に設置しない 内部の温度が上がり、火災・やけど・けが・感電の原因となります。
 分解禁止	改造や分解をしない、お客様による修理はしない 火災・感電、けがの原因となります。

警告







 禁止	電源コードを傷つけない、引っ張らない、無理に曲げない、本機や重いものの下敷きにしない、加熱しない、加工しない、また、熱器具に近づけない 電源コードを痛め、火災や感電の原因となります。
 禁止	クリップやピンなどの異物を機械の中に入れない 火災や感電の原因となります。
 禁止	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となります。





 禁止	ほこりや湿気の多い場所、油煙や湯気の当たる場所で使用しない 腐食性ガス（二酸化以降、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の存在する環境で使用しない 火災の原因となります。
 禁止	可燃性ガスが発生する場所では使用しない 爆発によるけがの原因となります。
 禁止	本機に水がかかるような場所に設置しない、ぬらさない 火災や感電の原因となります。 本機の近くに花びんなど、水の入った容器を置かないでください。 風呂やシャワー室では使用しないでください。 エアコン等、水を排出する機器にも注意してください。
 禁止	荷重に耐えられない場所や不安定な場所には設置しない 落下によるけがなどの原因となります。
 禁止	航空機、原子力設備、生命維持にかかわる医療機器などの高度な信頼性を必要とする設備への組み込みや制御などを目的とした使用はできません
 禁止	強度の電磁放射線に当てない 故障の原因になります。




 禁止	次の機器の近くには設置しない <ul style="list-style-type: none"> ● 医療用電気機器 ● 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器（火災報知器など） 電波により医療用機器、電子機器の動作に影響を与え、事故の原因となります。
 指示	工事をお買い上げの販売店に依頼する 工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。
 指示	定期的な点検、修理をお買い上げの販売店に依頼する 火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。
 指示	発熱したり、煙が出たり、変なおいがしたり、異音がするなどの異常が起きたら、すぐに本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く 異常な状態で使用を続けると、火災や感電の原因となります。お買い上げの販売店またはお客様相談窓口にご連絡ください。
 指示	機器を落としたり、キャビネットを破損したときは、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く そのまま使用すると火災や感電の原因となります。お買い上げの販売店またはお客様相談窓口にご連絡ください。
 指示	内部に水や異物が入った時は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く

	そのまま使用すると火災や感電の原因となります。お買い上げの販売店またはお客様相談窓口にご連絡ください。
 指示	電源は、正しい電源電圧のコンセントを使用する 付属の電源コードは AC100V 用です。指定以外の電源を使用すると、火災や感電の原因となります。
 指示	アースを接続する アースが接続されないで万一、漏電した場合は火災や感電のおそれがあります。 本機の電源プラグはアース端子付き 2 ピンプラグです。アースが接続できない場合は、専門の工事業者にご相談ください。
 指示	雷が鳴り始めたら、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く 火災や感電の原因となります。
 指示	電源プラグの刃や刃の付近に、ほこりや金属物が付着しているときは、電源プラグを抜いて乾いた布で取り除く そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
 指示	動作時は適切に換気する 換気が不十分だと、故障の原因となります。
 指示	輸送時は元々の梱包材か、同等のもので梱包する 輸送中の故障の原因となります。

注意

 禁止	硬いものでこすったり、たたいたりしない 破損してけがの原因になることがあります。
 禁止	本機の温度が高くなる部分に長時間触れない 低温やけどの原因となることがあります。
 禁止	電源コードは、タコ足配線しない タコ足配線をすると、過熱により火災の原因となる ことがあります。
 禁止	本機を逆さまにしない、本機の上にもものを 置かない 熱がこもり、発熱や火災、故障の原因となる ことがあります。
 禁止	ぐらつく台の上や、不安定な場所に置かない 強い衝撃や振動を与えない 落ちたり、倒れたりしてけがの原因になる ことがあります。
 禁止	風通しの悪いところに置いたり、じゅうたん や布団の上に置いたり、布などをかけたり しない 通風を妨げると内部に熱がこもり、故障や発熱、 発火の原因となる場合があります。

 指示	電源コードは、必ず付属または指定のものを 使用する 付属や指定以外のものを使用すると、火災の原因 となることがあります。
 指示	通風孔に付着したほこりやゴミはこまめ に取り除く 通風孔や内部にほこりがたまると、発熱や発火・ 故障の原因となることがあります。 内部に入ったほこりの清掃はお買い上げの販売 店またはお客様ご相談窓口に依頼してくださ い。 （内部の清掃費用については、お買い上げの販 売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせく ださい。）
 指示	火災や感電を防ぐために、次のことを守る <ul style="list-style-type: none"> ・ 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持っ て抜いてください。 ・ お手入れのときや、夜間、休業日などで長時 間使用しないときは、電源プラグをコンセ ントから抜いてください。 ・ 電源プラグや電源コードが熱いとき、またコ ンセントへの差し込みがぐらついていると きは、使用をやめてお買い上げの販売店ま たはお客様ご相談窓口にご相談ください。
 指示	本機近くのコンセントを使用する、電源プ ラグの抜き差ししやすい場所のコンセ ントを使用する

 指示	電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む 差し込みが不完全だと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となります。また、電源プラグの刃に触れると感電の原因となります。
 指示	周辺機器の接続や切断を行う場合は、本機の電源を切ってから行う
 指示	内蔵バックアップ電池は同一形名または同等品と交換する <ul style="list-style-type: none"> ・異なる型の電池を使用すると、発熱、破裂、発火の原因となります。 ・交換は必ず販売店に依頼してください。

3. 取り扱い上のお願い

長時間安定した性能でお使いいただくために

高温・多湿の場所で長時間使用および保管をしないでください。部品の劣化により寿命が短くなります。

また、直射日光が当たる場所で使用しないでください。

設置場所の放熱を良くしたり、暖房などの熱が直接当たらないようにしてください。

停電対応として、無停電電源装置との併用をご検討ください。

HDD について

- 本機はハードディスクを記録媒体として内蔵する精密機器です。パソコンと同様に、ハードディスクは壊れやすい要因を多分に含んだ特殊な部品です。ハードディスクの動作（書き込み、読み出し）中に振動を与えると、記録データの消失や故障の原因になることがあります。
- 電源を入れたときや電源を切った直後は HDD が動作中です。移動や設置作業は絶対にしないでください。
- HDD に記録された情報内容は、万一、消失しても故障や障害の原因に関わらず、弊社は補償いたしかねます。
- HDD は消耗劣化する部品です。消耗劣化が進むと書き込みエラーなどが発生しやすくなります。その後、ヘッドやモーターの劣化などにより寿命となります。
- HDD は使用環境により寿命が異なります。大切なデータが壊れないように、機器の周辺温度を 25℃程度に保つことをおすすめいたします。
- HDD に異常が発生した場合は、すみやかに買い上げの販売店にご連絡ください。

内蔵バックアップ電池について

- 内蔵バックアップ電池の寿命が過ぎると、内部時計の時刻がずれたり、各種設定履歴が消失したりします。また、電源を切った際に時刻設定の内容などが保存されません。
- 内蔵バックアップ電池を交換する場合はお買い上げの販売店に相談してください。

動作中に不意な電源の切り方をしないでください

本機は精密機器です。必ず適切なシャットダウンの手順に従って電源を切ってください。ハードディスクの動作（書き込み、読み出し）中にコンセントから電源プラグを抜いたり、本機から電源コードを抜くと、記録データの消失や故障の原因になることがあります。

使用するモニターについて

モニター上に長時間同じ画像を表示させると、モニターに損傷を与えることがあります。

長時間ご使用にならないとき

長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

結露（つゆつき）について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動させたときや、暖房などで室温が急に上がったときなど、本機の表面や内部に結露が起こる場合があります。結露が起きた場合は、結露がなくなるまで電源を入れしないでください。故障の原因となります。（結露を防ぐためには、徐々に室温を上げてください。）

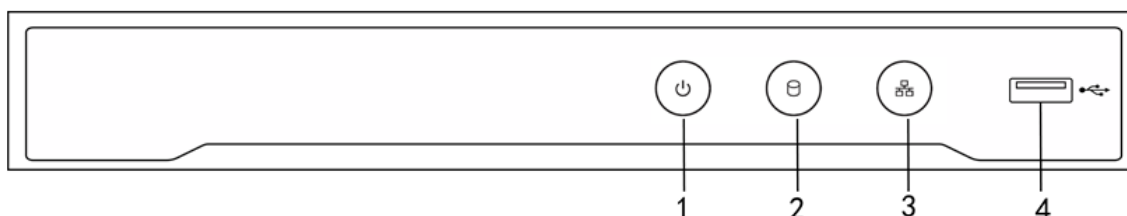
VCCI について

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

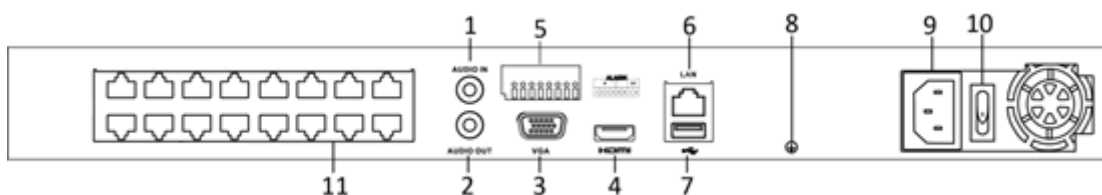
4. パネル概要

4.1 前面パネル



番号	名前	接続
1	電源	NVR の電源が入っている時は緑色に点灯します。
2	HDD	HDD のデータを書き込む間やそこからデータを読み出す間、赤色に点滅します。
3	Tx/Rx	ネットワーク接続が正常に機能していると、緑色に点滅します。
4	USB インターフェイス	NVR を操作する USB マウスや USB ハードディスクドライブ (HDD) などの周辺機器を接続するためのユニバーサルシリアルバス (USB2.0) ポートです。

4.2 背面パネル



番号	名前	説明
1	オーディオ入力	オーディオ入力用の RCA コネクタです。
2	オーディオ出力	オーディオ出力用の RCA コネクタです。
3	VGA インターフェイス	VGA 出力用コネクタです。
4	HDMI インターフェイス	HDMI ビデオ出力コネクタです。
5	アラーム入力	アラーム入力用コネクタです。
	アラーム出力	アラーム出力用コネクタです。
6	LAN ネットワークインターフェイス	本機をネットワークで使用するときには LAN ケーブルを接続します。LAN ケーブルはシールドタイプを使用します。 10/100/1000 Mbps 自動認識型イーサネットインターフェイスが1つ装備されています。
7	USB インターフェイス	NVR を操作する USB マウスや USB ハードディスクドライブ (HDD) などの周辺機器を接続するためのユニバーサルシリアルバス (USB 3.0) ポートです。
8	接地端子	アース線を接続します。(NVR 起動時に必ず接続してください。電源アースまたは本接地端子のいずれかを必ず接続してください。)
9	電源	100 VAC 電源です。
10	電源スイッチ	機器の電源を on/off するスイッチです。
11	PoE 機能付ネットワークインターフェイス	カメラ用ネットワークインターフェイスで、イーサネット経由で電力を供給します。

4.3 USB マウスの操作

このデバイスでは、通常の3ボタン式（左/右/スクロールホイール）のUSBマウスも使用できます。USBマウスの使用方法は次のとおりです。

- ① NVR フロントパネルにあるUSBインターフェイスにUSBマウスを接続します。
- ② マウスが自動的に検出されます。

注記：

メニュー出力が自動に設定されている場合、起動時にUSBマウスがUSB端子に接続されていないとメニュー出力先はVGAに設定されます。

名前	操作	説明
左クリック	シングルクリック	ライブビュー：チャンネルを選択してクリック設定メニューを表示します。 メニュー：選択して開きます。
	ダブルクリック	ライブビュー：シングルスクリーンとマルチスクリーンを切り替えます。
	クリックしてドラッグ	PTZコントロール：パン、ティルト、ズーム。 ビデオ干渉、プライバシーマスク、動体検知：ターゲットエリアを選択します。 デジタルズームイン：ドラッグしてターゲットエリアを選択します。 ライブビュー：チャンネル/時間バーをドラッグします。
右クリック	シングルクリック	ライブビュー：メニューを表示します。 メニュー：現在のメニューを閉じて前のメニューに戻ります。
スクロールホイール	上にスクロール	ライブビュー：前の画面。
	下にスクロール	ライブビュー：次の画面。

表：マウス操作の解説

5. 起動

5.1 NVR の起動

NVR を適切に起動および終了しないと、製品寿命が短くなる場合がありますので注意してください。以下の手順で NVR を起動します。

- ① 電源ケーブルがコンセントに差し込まれていることを確認します。無停電電源装置（UPS）との併用を強くおすすめいたします。
- ② 背面パネルの電源スイッチをオンにし、電源 LED が緑色に点灯することを確認してください。NVR が起動し始めます。NVR が起動すると、セットアップウィザードが立ち上がります。詳細は [5.5 セットアップウィザードによる簡単な基本設定](#) を参照ください。

注記： NVR の IPv4 アドレスの初期値は 192.168.1.64 になります。また、NVR の VGA/HDMI 解像度の初期値は 1024x768 になります。接続するディスプレイに合わせて解像度を変更してください。

5.2 NVR のアクティベーション

初回起動時は、管理者パスワードを設定して NVR をアクティベーションする必要があります。アクティベーションを行うまでは、どの操作も行うことができません。NVR のアクティベーションは、NVR を直接操作して行う以下に説明する方法のほか、NVR の LAN ネットワークインターフェイスにパソコンを接続してパソコンの Web ブラウザ経由でアクティベーションすることもできます。

- ① **[新しいパスワード作成]** および **[新しいパスワード確認]** フィールドに同じパスワードを入力します。また、接続するネットワークカメラのアクティベーションパスワードも **[IP カメラアクティベーションパスワード]** に入力します。

アクティブ	
ユーザー名	admin
新しいパスワード作成	***** 弱い
新しいパスワード確認	*****
IPカメラアクティベーションパ...	*****

✔ 有効なパスワード範囲は8-16しか、数字で、小文字、大文字、特殊な文字の2種類以上の組み合わせは必要です。

OK キャンセル

⚠ 警告

製品のセキュリティを高めるため、強力なパスワード(大文字、小文字、数字、特殊記号のうち、少なくとも3種類を混在させた8文字以上のパスワード)を設定するよう強くお勧めします。特に高いセキュリティが求められるシステムでは、パスワードを定期的に変更してください。毎月または毎週パスワードを変更することで、より安全に製品を保護することができます。

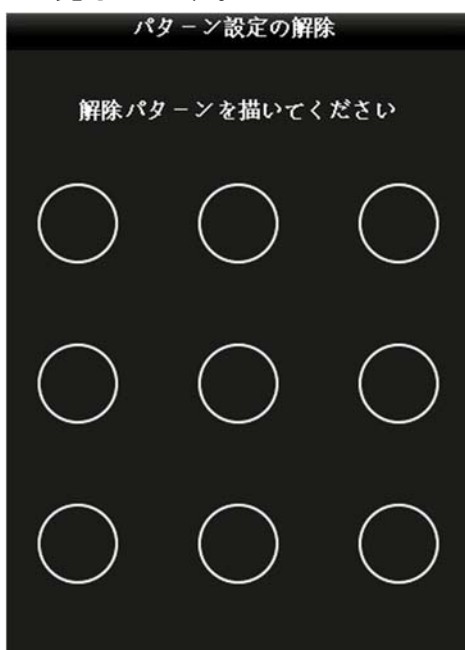
- ② **[OK]** をクリックしてパスワード保存し、NVR をアクティベーションします。
- ③ アクティベーション後、パスワードを適切に保つことを推奨するメッセージがポップアップ表示されます。**[Yes]** をクリックすると後からパスワードがリセットできるよう GUID ファイルをエクスポートすることができます。



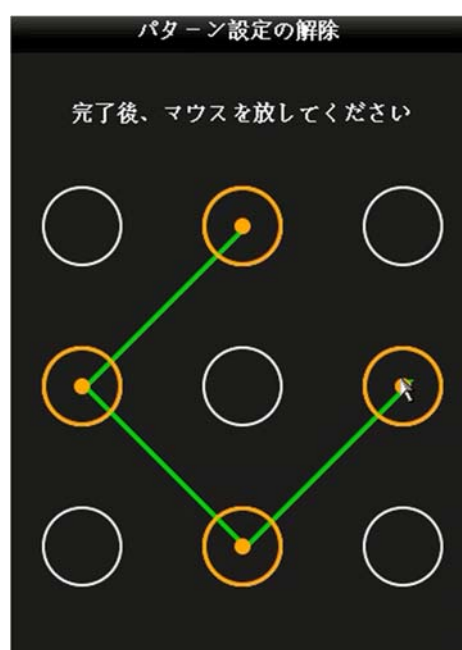
5.3 ロック解除パターンによるログインの設定

管理者ユーザーは、NVR へのログイン用ロック解除パターンを設定できます。

- ① アクティベーション完了後、パターン設定のインターフェイスが開き、NVR のロック解除パターンを設定できます。
- ② マウスを使用して画面上の9つのドットをつないでパターンを描いてください。パターンの最後のドットでマウスボタンを離すと、パターン指定が完了します。



パターン設定インターフェイス



ロック解除パターンの設定

注記：

- パターンを描く際は、少なくとも4つのドットをつないでください。
 - 各ドットは一度だけつなぐことができます。
- ③ 同じパターンを再度描いて、確認します。パターンが一致すると、パターンが登録されます。

注記：2つのパターンが一致しない場合、パターン設定をやり直す必要があります。

- ④ パターン設定後にセットアップウィザードが起動します。設定する場合は **[次に]** をクリック、設定しない場合は **[終了]** をクリックしてください。

5.4 システムへのログイン

目的：

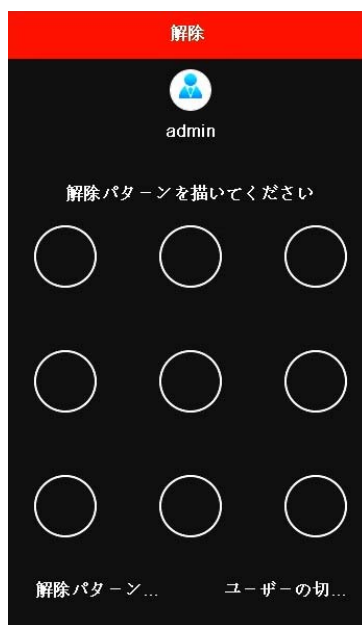
NVR からログアウトした場合、メニューやその他機能进行操作する前に、再びログインする必要があります。ロック解除パターンまたはパスワード入力を選択してログインすることができます。

5.4.1 ロック解除パターンによるログイン

注記：

管理者ユーザのみが NVR をロック解除する権限を持っています。ロック解除の前にまずパターンを設定してください。設定方法は 5.3 を参照してください。

- ①画面上で右クリックし、メニューを選択すると、ロック解除パターン画面が表示されます。



- ② 事前登録したロック解除パターンを描くとメニュー操作に進みます。

注記：

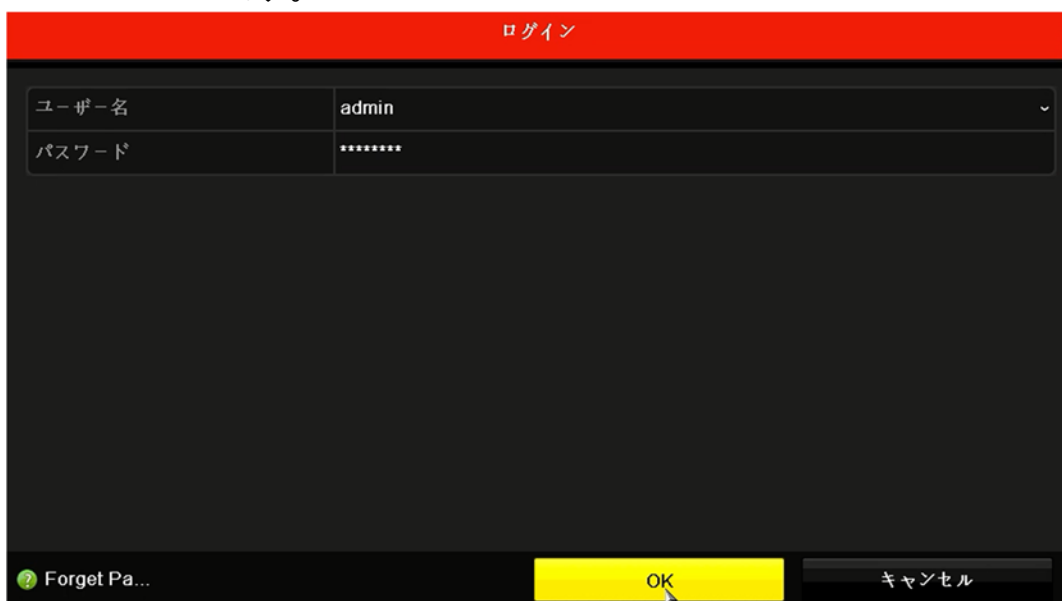
- 解除パターンを忘れてしまった場合、[解除パターンを忘れました]または

[ユーザーの切替]オプションを選択してください。通常のログインダイアログボックスを開いてください。

- 描いたパターンが設定したパターンと一致しない場合、警告音とともに注記メッセージが表示されます。
- 7回以上間違ったパターンを描画した場合、現在のユーザーアカウントが60秒間ロックされます。その後メニューを選択すると、通常ログインモード（パスワード入力）が表示されます。

5.4.2 パスワードによるログイン

- ① 画面をマウスで右クリックしてメニュー選択します。ログイン処理をしていない場合、ログインインターフェイスに移行します。
- ② ユーザー名リストからユーザー名を選択します。初期設定はadminです。



The screenshot shows a login dialog box with a red header bar labeled 'ログイン'. Below the header, there are two input fields: 'ユーザー名' (User Name) with a dropdown menu showing 'admin', and 'パスワード' (Password) with masked characters '*****'. At the bottom, there is a 'Forget Pa...' link on the left, a yellow 'OK' button in the center, and a grey 'キャンセル' (Cancel) button on the right.

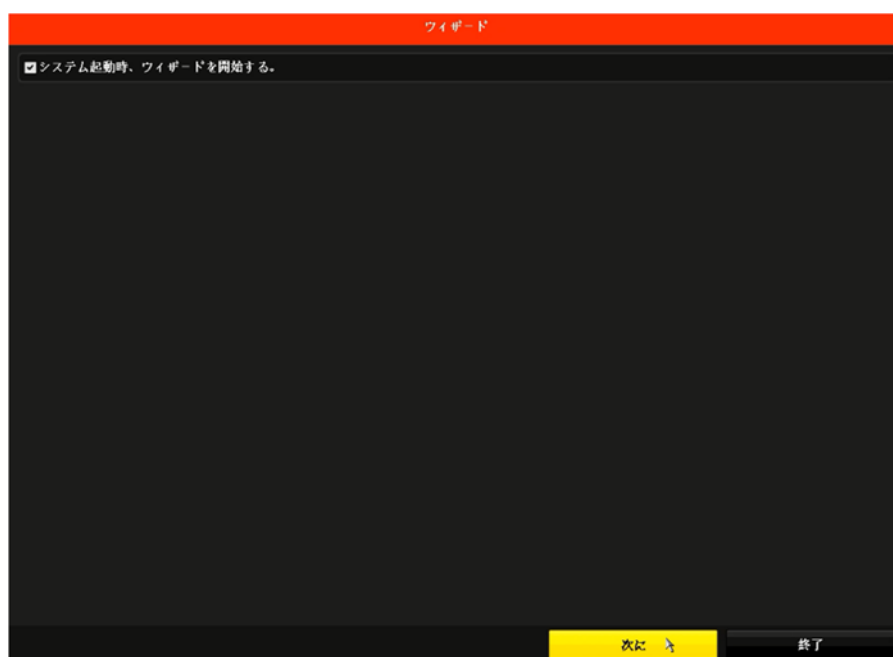
図：ログインインターフェイス画面

- ③ パスワードフィールドにパスワードを入力します。
- ④ [OK]をクリックしてログインします。

注記：間違ったパスワードを入力すると、警告音とともに注意メッセージが表示されます。管理者ユーザは7回、その他のユーザは5回入力ミスすると、現在のユーザーアカウントが60秒間ロックされます。

5.5 セットアップウィザードによる簡単な基本設定

セットアップウィザードにより、各設定を行なうことができます。デフォルト設定では、NVR が起動するたびにウィザードが立ち上がります。毎回のウィザード起動が不要な場合には、[システム起動時、ウィザードを開始する]チェックボックスからチェックを外してください。



[次に]をクリックし、ウィザードを続行します。セットアップウィザードのガイドに従って、パスワードの変更、日付と時刻の設定、ネットワークの設定（6.6を参照）、HDDの初期化、IPカメラの追加（6.7を参照）、録画（スケジュール録画・動体検知録画）の設定が可能です。

① 日付と時刻の設定インターフェイス上で日付と時刻を設定します。



ワイザード	
タイムゾーン	(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌、ソウル
日付の表示形式	DD-MM-YYYY
システムの日付	17-10-2018
システム時間	08:43:30

前に 次に 終了

② [次に] ボタンをクリックすると、ネットワークセットアップウィザードウィンドウが開きます。



ワイザード	
NICタイプ	10M/100M/1000M 適応
DHCP有効	<input type="checkbox"/>
IPv4アドレス	192.168.1.64
IPv4サブネットマスク	255.255.255.0
IPv4デフォルトゲートウェイ	. . .
DNSサーバーアドレスを自動的に取得する	<input type="checkbox"/>
優先DNSサーバ	
代替DNSサーバ	
内部NIC IPv4アドレス	192.168.254.1

前に 次に 終了

- ・ DHCP の有効/無効を選択できます。(デフォルトは無効になっています。)
- ・ 固有 IP アドレスの設定が必要な場合は、IP アドレスを入力してください。
- ・ 特に変更が必要ない場合は、そのまま次に進んでください。

③[次に]ボタンをクリックすると、ポート設定ウィザードウィンドウが開きます。

- ・ポート番号の変更が必要な場合は、ポート番号を入力してください。
- ・特に変更が必要ない場合は、そのまま次に進んでください。

項目	値
サーバポート	8000
HTTPポート	80
RTSPポート	554
UPnP有効	<input type="checkbox"/>
DDNS有効	<input type="checkbox"/>
DDNSタイプ	DynDNS
エリア/国	カスタムピットレート
サーバアドレス	
デバイスドメインネーム	
ステータス	DDNS使用禁止
ユーザー名	
パスワード	

前へ 次へ 終了

④[次に]をクリックすると、HDD管理ウィンドウが開きます。

ラベ...	容量	ステータス	プロパティ	タイプ	フリースペース
<input type="checkbox"/> 1	5589.03GB	通常	R/W	ローカル	5570.00GB
<input type="checkbox"/> 2	5589.03GB	通常	R/W	ローカル	5588.00GB

初期化

前へ 次へ 終了

●必要に応じて、HDD を初期化するには、**初期化ボタン**をクリックします。初期化すると、HDD に保存された全てのデータが削除されます。

⑤**[次に]**をクリックします。**[カメラ設定]**インターフェイスに進みます。

●**[検索]**をクリックしても検索機能は機能しません。

●カメラの追加は、PoE にカメラを接続後、プラグアンドプレイ機能により自動で追加されます。

●H. 265 を使用しない場合は、**[H. 265 有効]**のチェックボックスからチェックを外してください。

⑥[次に]をクリックすると、スケジュール録画／動体検知録画設定ウィザードウィンドウが開きます。



・スケジュール録画の設定アイコンをクリックすると、「すべてのチャンネルに対してオールデイ録画しますか?」と表示されます。Yes を選択すると、1年365日24時間すべて録画されます。



・動体検知録画の設定アイコンをクリックすると、「全チャンネルの全ての日を動体検知録画で開始しますか?」と表示されます。Yes を選択すると、動体検知した場合のみ録画されます。



※初期設定は1年365日24時間すべて録画になっています。

※録画の設定はメインメニューからも変更できます。

⑦メインメニューに進む

ウィザードが完了した後で、画面上で右クリックしてメニューを選択するとメインメニューが開きます。メインメニューの解説については以下の図と表を参照してください。



図: メインメニュー

表: アイコンの解説



アイコン	説明
	再生
	エクスポート
	VCA 検索
	手動

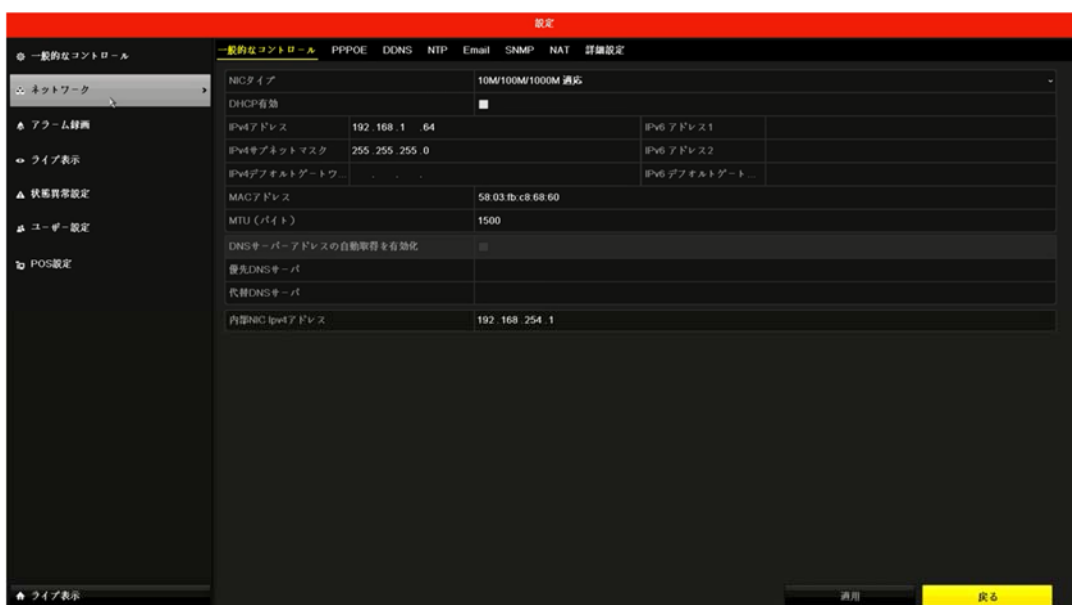
	HDD
	録画
	カメラ
	設定
	メンテナンス
	シャットダウン

5.6 ネットワーク設定

目的：

NVR をネットワーク経由で使用するためには、ネットワーク設定を正しく設定する必要があります。

- ① 画面をマウス右クリックしてメニューを開き、 **[メニュー]** >  **[設定]** > **[ネットワーク]** に移動します。
- ② **[一般的なコントロール]** タブを選択します。






- ③ **[一般的なコントロール]** インターフェイスでは、NIC タイプ、IPv4 アドレス、IPv4 ゲートウェイ、MTU、および DNS サーバーを設定できます。
- ④ DHCP サーバーを利用できる場合、**[DHCP を有効にする]** チェックボックスを選択することで、サーバーの IP アドレスや他のネットワーク設定を自動的に取得できます。
- ⑤ 設定が完了したら、**[適用]** ボタンをクリックして設定保存します。

5.7 システム操作




5.7.1 ログアウト

ログアウト後にライブビューモードになります。操作をしたい場合にはユーザー名とパスワード もしくは ロック解除パターンを再度入力する必要があります。

- ①  [メニュー] >  [シャットダウン] >  [ログアウト] をクリックします。

5.7.2 NVR のシャットダウン

NVRの背面パネルの電源スイッチをオフにする際、以下のシャットダウン処理を行ってから電源スイッチをオフにしてください。



- ②  [メニュー] >  [シャットダウン] >  [シャットダウン] をクリックします。
- ② [Yes] をクリックします。



- ③ [システムをシャットダウン中] の表示後に [電源スイッチをお切りください] と表示されたら、背面パネルの電源スイッチをオフにします。

5.7.3 NVR の再起動

シャットダウンメニューから、NVRの再起動も可能です。

- ①  [メニュー] >  [シャットダウン] >  [再起動] をクリックします。

② [Yes]をクリックします。



③ [システムを起動中]の表示後、再起動します。

6. カメラ接続

6.1 ネットワークカメラの追加

6.1.1 ネットワークカメラの手動追加




目的:

カメラ接続リストにネットワークカメラを手動で追加する方法を説明します。

・当社製ネットワークカメラを接続する場合は、[プラグアンドプレイ]を使って自動的に追加することができます。詳しくは 6.1.2 を参照ください。

始める前に:

ネットワーク接続が有効かつ正しく、追加する IP カメラがすでにアクティベーションできていることをご確認ください。

- ①  **[メニュー]** >  (カメラ) をクリックして、カメラ管理を開きます。
- ② 編集したい**[カメラ No]**のチェックボックスにチェックを入れ、 **[編集]** アイコンをクリックし、**[IP カメラ編集]**インターフェイスに移動し、**[メソッド追加]**を**[プラグアンドプレイ]**から**[手動]**に変更してください。手動に変更することで編集が可能になります。

IPカメラNo.	D1
メソッド追加	手動
IPカメラアドレス	192.168.254.2
プロトコル	default
管理ポート	8000
チャンネルポート	1
転送プロトコル	自動
ユーザー名	admin
パスワード	

プロトコル OK キャンセル

- ③ 追加する IP カメラの IP アドレス、プロトコル、管理ポート、転送プロトコル、ユーザー名、パスワードなどの情報を入力してください。
- ④ [OK] をクリックすると IP カメラの追加が完了します。


6.1.2 ネットワークカメラの自動追加（プラグアンドプレイ）

目的：

PoE インターフェイスはプラグアンドプレイ機能に対応しています。アクティベーションしていない当社製 PoE 対応ネットワークカメラを接続する際でもプラグアンドプレイ機能により自動で IP アドレス、ユーザー名、パスワードを割り振り、接続設定します。

- ① PoE 対応ネットワークカメラを、LAN ケーブルで NVR の PoE 機能付ネットワークインターフェイスに接続してください。自動で接続設定します。

・ [メニュー] > [カメラ] > [IP カメラ] をクリックすると、カメラ一覧が表示され、カメラの画像や情報を表示できます。

- ② 自動接続しない場合は IP カメラの LAN ケーブルを差し込んだ PoE インターフェイスの No に対応した [カメラ No] の  ボタンをクリックし、[メソッド追加] をプラグアンドプレイにして、PoE インターフェイスに再度 IP カメラを接続しなおしてください。

なお、メソッド追加は以下の 2 種類があります。

- ・ [プラグアンドプレイ]：カメラは PoE インターフェイスに物理的に接続されます。パラメータを編集することはできません。
- ・ [手動]：物理的な接続ではなく、ネットワーク経由で IP カメラを追加します。

IPカメラNo.	D1
メソッド追加	手動
IPカメラアドレス	192.168.254.2
プロトコル	default
管理ポート	8000
チャンネルポート	1
転送プロトコル	自動
ユーザー名	admin
パスワード	

プロトコル OK キャンセル

図：IP カメラの編集

6.2 PoE インターフェイスの設定

目的:

カメラと NVR の距離が離れていて 100m 以上の LAN ケーブルを使用する場合、長距離の PoE 伝送 (100~300m) が必要です。PoE チャンネルの長距離モードを有効化することで対応できます。

注記:

対応カメラが必要です。現時点では対応カメラはありません。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [PoE Configuration] をクリックし、[カメラ管理] を表示します。
- ② PoE Channel の [ON] または [OFF] を選択することで、長距離ネットワークケーブルモードを有効または無効にすることができます。
 - ON: PoE インターフェイスを介した長距離 (100~300 メートル) のネットワーク伝送です。
 - OFF: PoE インターフェイスを介した短距離 (<100 メートル) のネットワーク伝送です。



図: PoE 設定

注記:

- デフォルトでは、OFF : 短距離のネットワーク伝送が有効になっています。
- 長距離のネットワークケーブル (100~300 メートル) で PoE 接続された IP カメラの帯域幅は 6Mbps を超えることはできません。

●許容される最大のネットワークケーブルの長さは 300 メートル未満で、ネットワークカメラのモデルとケーブルの材質に依存します。

●伝送距離が 100～250 メートルに及ぶ場合、PoE インターフェイスとの接続には CAT5E または CAT6 のネットワークケーブルを用いる必要があります。

●伝送距離が 250～300 メートルに及ぶ場合、PoE インターフェイスとの接続には CAT6 のネットワークケーブルを用いる必要があります。

③ **[戻る]** をクリックします。

6.3 カスタマイズプロトコルの設定

目的:

標準プロトコルで設定されていないネットワークカメラを接続する場合、それらのカスタマイズプロトコルを設定できます。本 NVR では、16 のカスタムプロトコルを提供しています。

- ・ 当社製ネットワークカメラ（YK シリーズ）を接続する場合は設定不要です。（プロトコルは[default]に設定されています。）
- ・ ONVIF 対応の他社製ネットワークカメラを接続する場合、プロトコルは ONVIF を選択してください。
- ・ ONVIF 非対応の他社製ネットワークカメラを接続する場合、プロトコルはカメラメーカーを選択してください。

注記:

他社製ネットワークカメラの接続保証はできません。

- ① [メニュー] > [カメラ] をクリックし、[カメラ管理]を開きます。
- ② カメラ一覧の中からプロトコルを編集したいカメラを探して[編集]アイコンをクリックし、[IP カメラ編集]を開きます。



IPカメラ編集	
IPカメラNo.	D1
メソッド追加	手動
IPカメラアドレス	192.168.254.2
プロトコル	default
管理ポート	8000
チャンネルポート	1
転送プロトコル	自動
ユーザー名	admin
パスワード	

プロトコル OK キャンセル

図: IP カメラ管理

- ③ [メソッド追加]のドロップダウンメニューから[手動]を選択します。
- ④ [プロトコル]欄のドロップダウンメニューの中から接続するカメラにあったプロトコルを選択し、[OK]ボタンをクリックして保存します。

注記：

画面下の[プロトコル]ボタンをクリックするとプロトコル管理へ移動し、カスタムプロトコルを作成することができます。その場合、[転送プロトコル]は基本的に[自動]に設定してください。



図: プロトコル管理

タイプ: カスタムプロトコルでは標準 RTSP ストリームを取得することができます。

パス: ネットワークカメラのメーカーに連絡し、メインストリームとサブストリームを取得する URL (uniform resource locator) を確認する必要があります。

URL のフォーマットは : [タイプ]://[ネットワークカメラの IP アドレス]:[ポート]/[パス] です。

例: rtsp://192.168.1.55:554/ch1/main/av_stream.

注記:

プロトコルタイプと転送プロトコルは、接続されたネットワークカメラ側で対応していなければなりません。

7. カメラ設定

7.1 OSD（オンスクリーンディスプレイ）設定

目的:

日付/時刻、カメラ名など、カメラ映像上に表示するOSD（オンスクリーンディスプレイ）の設定を行うことができます。

- ① [メニュー] > [カメラ]を開き、左側のメニューから[OSD]をクリックし、OSD設定インターフェイスを表示します。



図：OSD 設定インターフェイス

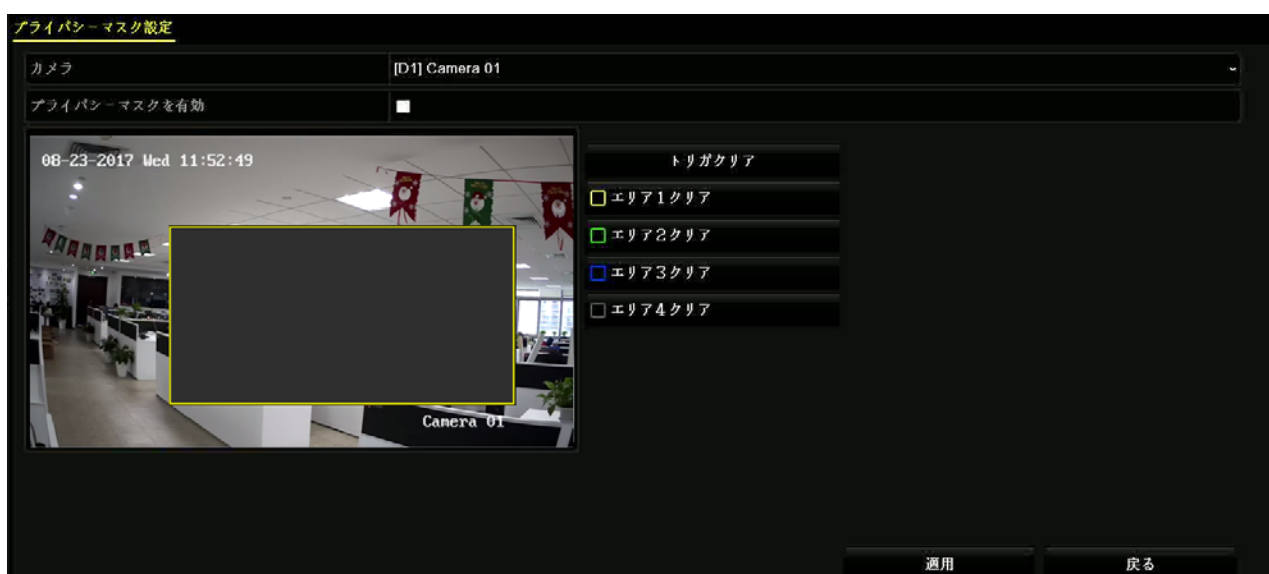
- ② [カメラ]のドロップダウンリストから設定したいカメラを選択します。
- ③ カメラ映像上の表示したい情報に応じて、[カメラ名表示]、[日付表示]などのチェックボックスにチェックします。
 - ・[日付表示]のチェックボックスをオンにすると、[曜日表示]、[日付の表示形式]、[時間表示形式]を選択できます。
 - ・カメラ名を表示する場合、[カメラ名]欄のテキストフィールドを編集することで任意の名称に変更できます。
- ④ [表示方式]をドロップダウンリストから選択します。
 - ・表示位置は、OSD設定画面上のプレビューウィンドウ上に表示される枠（黄色/赤色）をマウスのクリック&ドラッグ操作で調整できます。
- ⑤ [適用]をクリックして、設定を保存します。

7.2 プライバシーマスクの設定

目的:

プライバシーマスクは、画像の一部を隠してマスクされたエリアの表示や録画を制限するもので、プライバシーを守るために利用できます。

- ① [メニュー] > [カメラ] を開き、左側のメニューから [プライバシーマスク] を選択、クリックし、プライバシーマスク設定画面を表示します。



図：プライバシーマスク設定インターフェイス

- ② [カメラ]のドロップダウンリストから、プライバシー マスクを設定するカメラを選択します。
- ③ [プライバシーマスクを有効]のチェックボックスをクリックし、この機能を有効にします。
- ④ プレビューウィンドウ上で、マウスのクリック&ドラッグ操作を使ってプライバシーマスクするゾーンを指定します。
 - ・プライバシーマスクゾーンは4つまで設定でき、異なるフレーム色でマークされます。
 - ・プライバシーマスクゾーンのサイズは、プレビューウィンドウ上のマウス操作で調整できます。
 - ・プライバシーマスクゾーンは、プレビューウィンドウ右側の消去アイコンをクリックすることで、個別または一括で削除できます。

- ⑤ [適用]をクリックして、設定を保存します。

7.3 ビデオパラメータの設定

目的:

ライブビュー/録画画像の輝度、コントラスト、彩度といった画像パラメータを設定できます。















[メニュー] > [カメラ] を開き、左側のメニューから [イメージ] を選択、クリックし、画像調整画面を表示します。





- ① [カメラ]のドロップダウンリストから、設定するカメラを選択します。
- ② プレビューウィンドウを確認しながら、輝度、コントラスト、彩度を調整します。
 - ・スライダーをマウスで調整するか、あるいは、数値の横の上下の矢印をクリックすることで調整できます。
- ③ [適用]をクリックして、設定を保存します。

8. ライブビュー

8.1 ライブビューの開始

- ① NVR が起動すると自動で監視カメラのライブビューインターフェイスが開きます。
- ② ライブビュー用ウィンドウ上でマウス左クリックをするとツールバーが表示されます。ツールバーを使って、ツールバー左側から順に、録画開始/停止、簡易再生（直近 5 分前から録画した映像を再生）、音声のオン/オフ、キャプチャ、PTZ コントロール（対象機種のみ）、デジタルズーム、画像調整（輝度/コントラスト/彩度）、顔検出のオン/オフ（対象機種のみ）、ライブビューストラテジー（動き重視：リアルタイム/中間：バランス/画質重視：なめらかさ）、チャンネル情報（fps, ビットレートのリアルタイム表示など）、魚眼拡大（パノラマ表示、対象機種のみ）、3D ポジショニング（対象機種のみ。特定したエリアをズームイン/ズームアウトする）、メインストリーム⇄サブストリームの切り替え（対象機種のみ）を行うことができます。でツールバーを終了します。




- ③ ライブビュー用ウィンドウ上でダブルクリックすると全画面に切り替わります。もう一度ダブルクリックすると分割画面に切り替わります。
- ④ 画面をマウス右クリックでメニューを開き、 [一画面表示] で全画面表示のカメラを切り替えることができます。
- ⑤ マウス右クリックでメニューを開き、 [分割表示] の表示レイアウトを 2x2、1(大画面)+5(小画面)、1(大画面)+7(小画面)、3x3、4x4 から変更可能です。



8.1.1 デジタルズーム

デジタルズームで、ライブビュー画像を倍率 1~16 倍でズームすることができます。

- ① ライブビューモードで、拡大したいカメラ映像をクリックしてツールバーを表示します。
- ② ツールバーの  [デジタルズーム] アイコンをクリックします。
- ③ 左上に表示されるスライダーをマウスで動かすか、マウスホイールをスクロールすることで、画像をズームイン/アウト（倍率 1~16 倍）することができます。

- ・スライダーで操作した場合、画面中央でズームイン/アウトします。
- ・マウスホイールで操作した場合、マウスポインターのある位置でズームイン/アウトします。

④ 画面を右クリックして、もとのライブビューに戻ります。




図: デジタルズーム

8.1.2 パノラマ表示（魚眼画像拡張機能）

パノラマ表示（魚眼画像拡張機能）は、全方位カメラがライブビューまたは再生モードになっているときにサポートされます。





特記：

全方位カメラのみ対応しております。

- ① ライブビューモードで、ライブビュー映像をクリックしてツールバーを表示します。
- ② ツールバーの  [魚眼拡大] アイコンにマウスカーソルを合わせるとパノラマ表示（魚眼画像拡張機能）のメニューが表示されます。

- ・  [魚眼] アイコン：魚眼モード

全方位カメラの広角ビューモードで表示されます。このビューモードは、魚の凸面状の目の視界に似ているため、「魚眼」と呼ばれています。広いエリアを曲面的に表示しますが、物体の角度や遠近感は湾曲します。

- ・  [PTZ]アイコン: PTZ クローズアップビュー
 広角ビュー上の一部の定義されたエリアに対して、電子的な PTZ 機能を使用してクローズアップした平面映像を表示します。
- ・  [360 度]アイコン: 360 度パノラマビュー
 ライブビュー映像を 360 度のパノラマビューに切り替えます。
- ・  [180 度]アイコン: 180 度パノラマビュー
 ライブビュー映像を 180 度のパノラマビューに切り替えます。
- ・  [放射状展開]アイコン: 放射状展開モード
 ライブビュー映像を放射状に展開した映像に切り替えます。

特記:


全方位カメラの魚眼設置モード設定によって、使用できない機能があります。

8.1.3 3D ポジショニング

3D ポジショニングは、ライブビュー映像の特定のエリアへのズームインを行います。

特記:


PTZ 機能をサポートしているカメラのみ対応しております。

- ① ライブビューモードで、ライブビュー映像をクリックしてツールバーを表示します。
- ② ツールバーの  [3D ポジショニング]アイコンをクリックすると 3D ポジショニングモードに入ります。
 - ・ **ズームイン:** ライブビュー映像の任意の位置でマウスの左ボタンを右下の方向に向けてクリックアンドドラッグして四角形の領域を描くと、その領域に対してズームインします。


8.1.4 キャプチャ

キャプチャは、ライブビュー映像をキャプチャして画像として保存を行います。


・ ツールバーによるキャプチャ方法

- ① ライブビューモードで、ライブビュー映像をクリックしてツールバーを表示します。
- ② ツールバーの  [キャプチャ] アイコンをクリックすると、クリックしたときのライブビュー映像をキャプチャします。

・ 連続キャプチャ設定

- ① 画面をマウス右クリックしてメニューを開き、  [メニュー] > [手動] > [連続キャプチャ] に移動します。
- ② 連続キャプチャしたいカメラのチャンネル [OFF] アイコンをクリックして [ON] に切替し、[戻る] ボタンをクリックすると有効になります。
- ③ 常にキャプチャし続けるようになりますので、解除したい場合は、①の手順の後、カメラのチャンネル [ON] アイコンをクリックして [OFF] に切替し、[戻る] ボタンをクリックして無効にしてください。

・ キャプチャ画像再生

- ① 画面をマウス右クリックしてメニューを開き、  [メニュー] > [再生] に移動し、画面左上のドロップダウンリストから [イメージ] を選択します。
- ② 次にキャプチャしたカメラにチェックを入れ、キャプチャしたファイルを検索するために検索する [開始時間] [終了時間] を指定して検索するとキャプチャしたファイルの一覧が表示されます。
- ③ 再生アイコンをクリックするとキャプチャ画像が表示されます。

8.2 ターゲット検知

ライブビューモードでは、ターゲット検知機能により、人物の顔を直前 5 秒および直後 10 秒間、検知することができます。


- ① ライブビューモードで、ターゲット検知を有効にしたいカメラ映像をクリックしてツールバーを表示します。
- ② ツールバーの  [顔検知]アイコンをクリックします。
 - ・顔検知非対応のカメラが接続されている場合、本機能を利用できません。利用できない場合、[顔検知]アイコンはグレーアウトしています。
- ③ 「顔検知機能を有効にしますか？」ダイアログが表示されるので、[Yes]をクリックします。
 - ・ライブビューモードで人物の顔を検知すると、アラームマーク（鈴）が表示されるようになります。
 - ・検知した際の動作は、[メニュー]から詳細に設定することができます



図: ターゲット検知

8.3 ライブビューの設定

ライブビューは、お好みに合わせてカスタマイズできます。出力インターフェイス、音声のミュート/有効化、表示する画面数などを設定できます。

① [メニュー] > [設定] > [ライブ表示]に移動します。

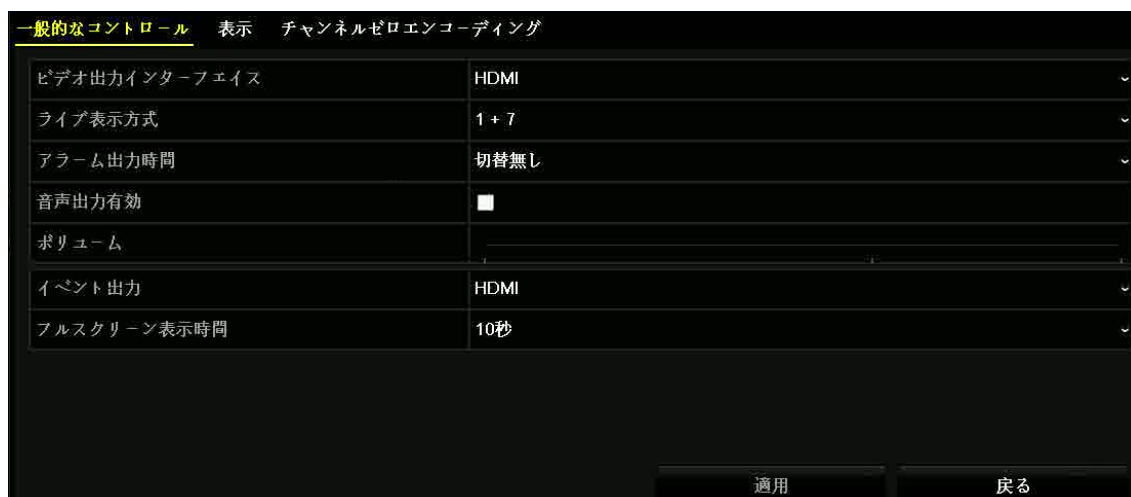


図:ライブビュー (一般)

② [一般的なコントロール]タブで、ライブ表示のパラメータを設定します。

- **ビデオ出力インターフェイス**:設定するビデオ出力を選択します。
- **ライブ表示方式**:ライブビューのディスプレイモードを選択します。例: 2x2、1x5 等。
- **アラーム出力時間**:アラームイベント画面を表示する時間を選択します。(5～300 秒)
- **音声出力有効**:音声出力を有効化/無効化します。
- **ボリューム**:音声出力が有効化されている再生および双方向音声場合の音量を調整します。
- **イベント出力**:イベントビデオを表示する出力を選択します。
- **フルスクリーン表示時間**:アラームイベント画面を表示する秒単位での時間を設定します。

③ [適用]をクリックして設定を保存します。

8.4 ライブビューのレイアウト設定

- ① [メニュー] > [設定] > [ライブ表示]に移動します。
- ② [表示]タブのビデオ出力インターフェースを選択します。
- ③ 画面レイアウト図下側のツールバーから、分割モードを選択します。
(1*1/2*2/1*5/1*7/3*3/4*4)
- ④ 分割ウィンドウの任意の場所を選択した後、その場所に表示させたいカメラをリストからダブルクリックで選択し、設定します。
- ⑤ [適用]をクリックして設定を保存します。

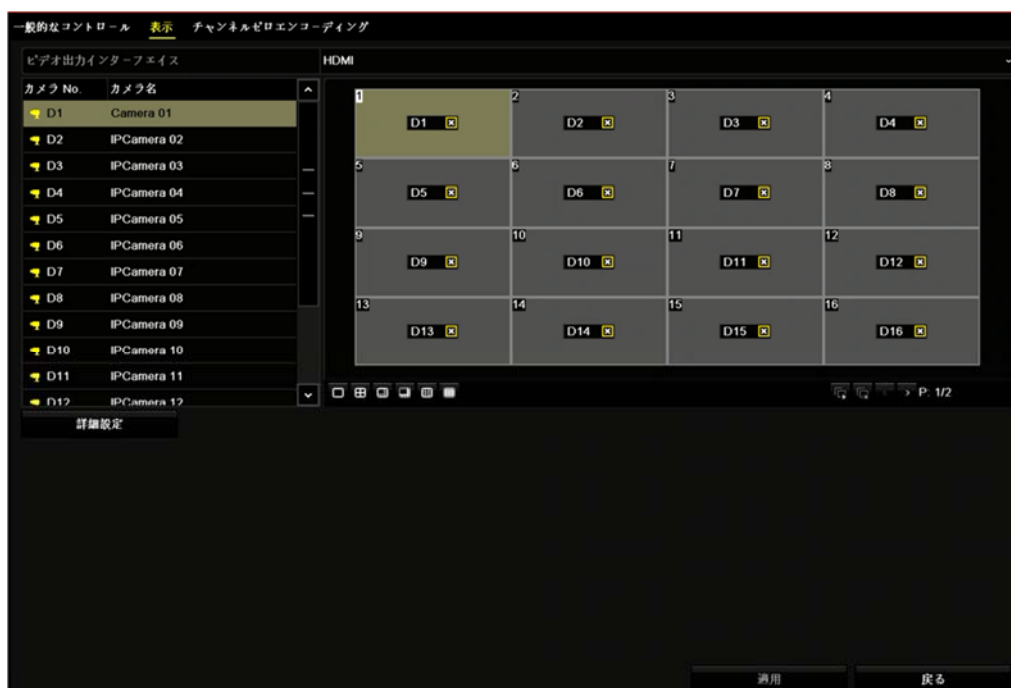




図: ライブビューのレイアウト設定

関連操作:

-  ボタンをクリックするとすべてのチャンネルでライブビューの表示を有効にします。
-  をクリックすると、すべてのライブビューの表示を無効にします。

8.5 カメラの自動切替設定

カメラの自動切替を設定することで、異なる表示モードでのライブ表示を行うことができます。

- ① [メニュー] > [設定] > [ライブ表示]に移動します。
- ② ビデオ出カインターフェイス、ライブビューモードと滞留時間を設定します。
 - **ビデオ出カインターフェイス**:ビデオ出カインターフェイス (HDMI/VGA) を選択します。
 - **ライブ表示形式**:ライブビューのディスプレイモードを選択します。例: 2x2、1+5 等。
 - **フルスクリーン表示時間**:自動切替が有効になっている場合の、カメラが切り替わるまでの滞留時間(単位:秒)です。
- ③ [表示]タブに移動してビューのレイアウトを設定します。
- ③ [OK]をクリックして設定を保存します。

8.6 チャンネルゼロエンコーディングの設定

目的:

Webブラウザからリアルタイムで多くのチャンネルを遠隔表示する必要がある場合、画質に影響を与えることなく帯域幅を低減するために、チャンネルゼロエンコーディングを有効にすることができます。

- ① [メニュー] > [設定] > [ライブ表示]に移動します。
- ② [チャンネルゼロエンコーディング]タブのチャンネルゼロエンコーディング有効のチェックボックスをチェックして有効にします。
- ③ フレームレート、最大ビットレート方式、最大ビットレート(Mbps)を設定します。フレームレートおよびビットレートの数値を高くするほど、帯域幅に対する要求条件が高くなります。
- ④ [適用]をクリックして設定を保存します。

注記:

Webブラウザを利用して、すべてのチャンネルを1つの画面に表示させることができます。



図: ライブビュー (チャンネルゼロエンコーディング)

9. PTZ コントロール


9.1 PTZ コントロール

始める前に

接続しているネットワークカメラが PTZ 機能をサポートしており、正しく接続されていることを確認してください。

目的

PTZ コントロールウィザードを使って、基本的な PTZ 操作を行うことができます。

- ① ライブビューモードで操作したいカメラ映像をクリックしてツールバーを表示します。
- ② ツールバーの  [PTZ コントロール]アイコンをクリックすると、PTZ 操作ウィンドウが表示されます。
- ③ 撮影位置調整（上下左右の矢印）、ズームイン/アウト、フォーカス、アイリスを調整（+/-）します。
 - ・下側のスピード調節バーで、反応スピードを調節することができます。
- ④ ×を押してウィンドウを閉じます。



図： PTZ 操作ウィンドウ

9.2 PTZ パラメータの設定

目的

手順に従ってPTZのパラメータを設定します。PTZカメラの操作をする前にPTZパラメータの設定が必要です。

- ① ライブビューモードでPTZカメラのツールバーを表示します。
- ② [PTZ コントロール]アイコンをクリックすると、PTZ 操作ウィンドウが表示されます。
- ③ [設定]ボタン > [PTZ パラメータ設定]ボタンをクリックすると PTZ パラメータ設定画面が開きます。
- ④ PTZ カメラのパラメータを編集します。
注記：
すべてのパラメータが PTZ カメラパラメータと完全に一致している必要があります。
- ⑤ [OK]をクリックして設定を保存します。

PTZパラメータ設定	
ボーレート	9600
データビット	8
ストップビット	1
パリティ	録画無し
フロー制御	録画無し
PTZプロトコル	default
アドレス	0
アドレス範囲: 0~255	
OK キャンセル	

図: PTZ パラメータ設定

9.3 PTZ プリセット、パトロールおよびパターンの設定

始める前に:

プリセット、パトロールおよびパターンが PTZ プロトコルで対応していることを確認してください。

9.3.1 プリセットの設定

目的:

イベント発生時に PTZ カメラを向けたいプリセット位置を設定します。

- ① ライブビューモードで PTZ カメラのツールバーを表示し、[PTZ コントロール] アイコンをクリックします。
- ② [設定] ボタンをクリックします。
 - ・ライブビューの下側に PTZ コントロールパネルが表示されます。
- ③ PTZ コントロールパネルの方向ボタンで、カメラをプリセットに設定する位置まで動かします。
 - ・ズームやフォーカスの操作もプリセットに記録できます。
- ④ 右側のプリセットのテキスト入力ボックスにプリセット番号 (1~255) を入力し、[設定] ボタンをクリックして設定を保存します。
 - ・さらにプリセット位置を設定する場合には、③④を繰り返し行います。

関連操作:

[トリガクリア] ボタンを押すと、「すべてのプリセット点をクリアしますか?」と表示され、Yes を押すとプリセットが解除されます。



図: プリセットのクリア

9.3.2 プリセットの呼び出し（コール）

目的:

イベント発生時に、カメラを窓などの事前に指定しておいた位置（プリセット位置）に向けることができます。

- ① ライブビューモードでPTZカメラのツールバーを表示し、[PTZ コントロール]アイコンをクリックします。
- ② [設定]ボタンをクリックします。
- ③ プリセットのテキストフィールドにプリセット番号を入力し、[コール]ボタンをクリックすると、位置を呼び出すことができます。
 - ・事前に設定したプリセット位置にカメラが移動します。

9.3.3 パトロールの設定

目的:

PTZカメラを設定したキーポイントを順に移動させてパトロール活用することができます。各キーポイントでの待機時間も設定することができます。キーポイントはプリセット位置に対応しています。

- ① ライブビューモードでPTZカメラのツールバーを表示し、[PTZ コントロール]アイコンをクリックします。
- ② [設定]ボタンをクリックします。
- ③ [パトロール]のドロップダウンリストから設定するパトロール番号を選択します。
- ④ [パトロール]の[設定]ボタンをクリックすると、キーポイントウィンドウが開きます。
- ⑤ プリセットのテキストフィールドに該当するプリセット番号を入力し、巡回時間、スピードを設定します。
 - ・巡回時間は、対応するキーポイントにとどまる時間を示します。
 - ・スピードは次のキーポイントに移動するスピードで、数字が大きいほど移

動スピードが速くなります。

・ [追加] ボタンを押すと次のキーポイントを設定できます。

⑥ [OK] ボタンを押して設定を保存します。

・ さらにパトロールを設定する場合は、③～⑥を繰り返します。

関連操作：

・ [クリア] ボタンで表示されているパトロール番号の設定を、また、[トリガクリア] ボタンですべてのパトロール設定を削除できます。



図:パトロール設定



図:キーポイントの設定

9.3.4 パトロールの呼び出し（コール）

目的:

パトロール呼び出しで、事前に定義したパトロールパスに沿って PTZ を動かすことができます。

- ① ライブビューモードでPTZカメラのツールバーを表示し、[PTZ コントロール]アイコンをクリックします。
- ② [設定] ボタンをクリックします。

- ③ パトロールのドロップダウンリストから、呼び出したいパトロール番号を選択します。
- ④ [コール]ボタンをクリックすることで、呼び出すことができます。



図:パトロール設定

9.3.5 パターンの設定

目的:

パターン設定でPTZの動きを記録することができます。パターンを呼び出して、事前に定義したパスに沿ってPTZを動かすことができます。

- ① ライブビューモードでPTZカメラのツールバーを表示し、[PTZコントロール]アイコンをクリックします。
- ② [設定]ボタンをクリックします。
- ③ パターンのテキストフィールドにパターン番号を選択します。(1しか選択できません)
- ④ パターンを記録します。
 - 1) [記録開始]をクリックして、記録を開始します。
 - 2) ライブビュー画面下のコントロールパネルの方向ボタンやズームを操作して、設定したいパターンに沿ってカメラを動かします。
 - 3) [停止]をクリックして記録を停止します。
 - ・2)の操作がパターンとして記録されます。



図:パターン設定

9.3.6 区域スキャン制限の設定

始める前に:

接続されたネットワークカメラが PTZ 機能をサポートしており、正しく接続されていることを確認してください。

目的:

区域スキャンを有効化することで、事前に定義した範囲で水平方向にスキャンできます。

注記:

この機能は一部のモデルで対応しています。(カメラの機種によっては使用できません。)

- ① ライブビューモードで PTZ カメラのツールバーを表示し、[PTZ コントロール] アイコンをクリックします。
- ② [設定] ボタンをクリックします。
- ③ ライブビュー下側のコントロールパネルの方向ボタンで、カメラの制限を設定する場所をクリックし、区域スキャンの [左の限界] または [右の限界] ボタンをクリックして設定します。

注記:

PTZ は左側制限から右端制限にリニアスキャンを開始します。このため、左側制限から右側制限の角度が 180° 以下になるように、右側制限の左側に左側制限を設定する必要があります。

9.3.7 区域スキンの呼び出し

注記：

この機能を実行する前に、接続済みカメラが区域スキャンに対応していることを確認してください。

目的：

事前に登録したスキャン区域に従って、カメラでスキャンします。

- ① ライブビューモードでPTZカメラのツールバーを表示し、[PTZ コントロール]アイコンをクリックします。
- ② [ワンタッチコントロール]をクリックします。
- ③ [区域スキャン]ボタンをクリックすると、スキャンが開始されます。
 - ・ [区域スキャン]ボタンを再度クリックすると停止します。

注記：

設定を有効にするには、カメラを再起動します。

9.3.8 ワンタッチコントロール

注記:

この機能进行操作する前に、接続済みカメラが区域スキャン/プリセット/パトロールに対応し、ていることを確認してください。

目的

PTZ の一部のモデルでは、非アクティブの時間帯（待機時間）の後に、事前に定義した待機アクション（スキャン、プリセット、パトロールなど）を自動的に開始するよう設定できます。

- ① ライブビューモードでPTZカメラのツールバーを表示し、[PTZ コントロール]アイコンをクリックします。
- ② [ワンタッチコントロール]をクリックします。
- ③ [パーク（速い巡視）]、[パーク（巡視1）]、[パーク（プリセット点1）]をクリックすると、待機アクションが有効化されます。
 - ・[パーク（速い巡視）]: PTZ が常駐時間後に、事前に定義したプリセット1~32まで順番にパトロールを開始します。未定義のプリセットはスキップされます。
 - ・[パーク（巡視1）]: PTZ が常駐時間後に、事前に設定したパトロール1のパスに沿って動作を開始します。
 - ・[パーク（プリセット点1）]: 待機時間後に、PTZ が事前に定義したプリセット1の場所に移動します。

注記:

待機時間はPTZ設定インターフェイス経由でのみ設定できます。デフォルトの値は5秒です。

- ④ [パーク（速い巡視）]、[パーク（巡視1）]、[パーク（プリセット点1）]をクリックすると、待機アクションを無効化します。

9.4 その他の機能

始める前に

接続済のネットワークカメラが PTZ 機能をサポートしており、正しく接続されていることを確認してください。

目的

ライト、ワイパー、3D ポジショニングおよびセンタリングを含む補助機能は、PTZ コントロールパネル上で操作することができます。

- ① ライブビューモードで PTZ カメラのツールバーを表示し、[PTZ コントロール] アイコンをクリックします。
- ② [設定] ボタンの右側にあるアイコン一覧から、所望の機能のアイコンを選択してクリックします。アイコンについての詳細は、表を参照してください。
 - ・ビュー画面で右クリックするとコントロールパネル画面に戻ります。アイコンは左から [メニュー] [3D 定位] [センター] [ライト] [ワイパー] です。
 - [メニュー] : 何も動きなし
 - [3D 定位] : ライブビュー画面上にマウスポインタがでてきて、左クリックで注目したい範囲を四角形で描くことで、その範囲を拡大、縮小して表示します。四角形を描く方向が左から右の場合は拡大表示、右から左の場合は縮小表示となります。
 - [センター] : ライブビュー画面上にマウスポインタがでてきて、クリックするとその位置が中央になるようにカメラがパン、チルトします。
 - [ライト] : ライト搭載カメラであればオン/オフ制御します
 - [ワイパー] : ワイパー対応カメラであればオン/オフ制御します

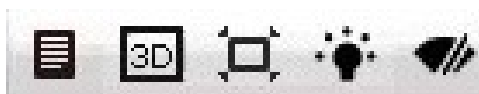


図: 補助機能の設定







アイコン	説明
	メニュー
	3D 定位
	センター
	ライトオン/オフ
	ワイパーオン/オフ

表: 補助機能アイコンの説明




10. HDD 設定 (HDD 冗長化)

目的:

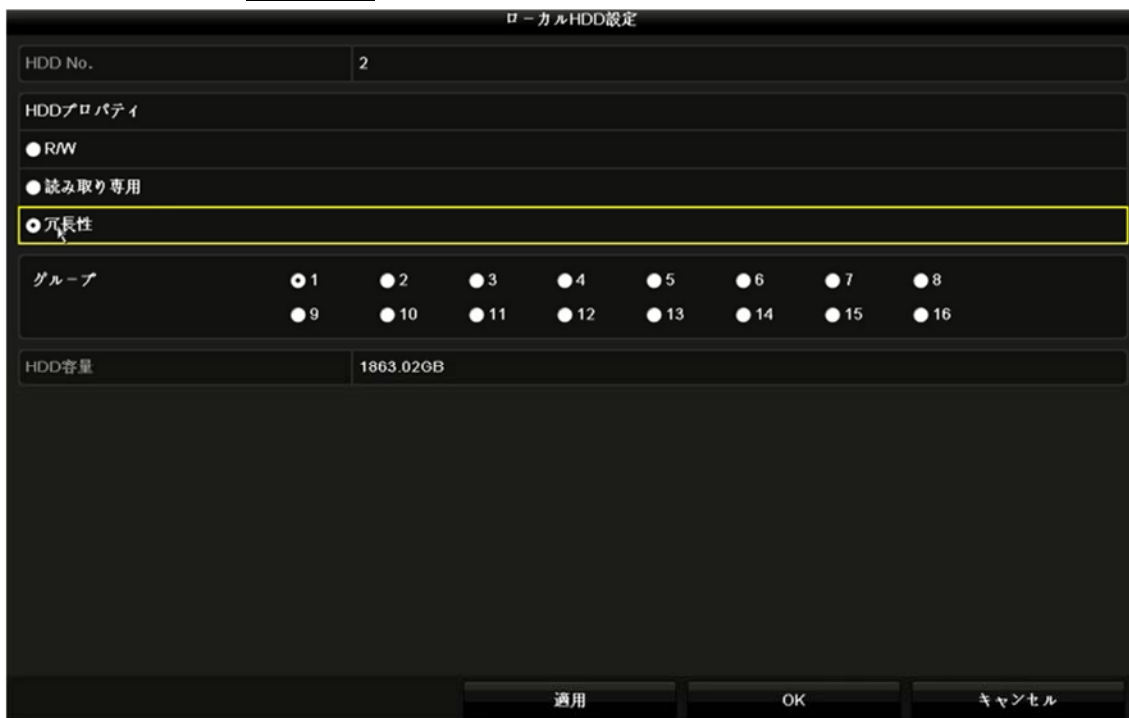
HDD への冗長録画とキャプチャを有効化すると、読み書きの HDD 内だけでなく冗長 HDD 内にも録画ファイルとキャプチャ画像を保存でき、データの安全性と信頼性が向上します。デフォルト設定では HDD 冗長ではありません。HDD 冗長を有効にするためには HDD のモードを [割り当て] から [グループ] に変更する必要があります。



- ① 画面をマウス右クリックでメニューを開き、 [メニュー] >  [HDD] > [詳細設定] > [ストレージモード] に移動します。
- ② [モード] リストを [割り当て] から [グループ] に変更し、[適用] をクリックすると [ストレージモードの変更を適用するため再起動します。続行しますか?] と表示されます。[Yes] をクリックして NVR を再起動します。



- ③ 再起動後、メニューを開き、 [メニュー] >  [HDD] > [詳細設定] > [ストレージモード] に移動し、モードが [グループ] に変更されていることを確認してください。
- ④ [一般的なコントロール] > [HDD 情報] に移動し、リストからバックアップ側 HDD の  [編集] をクリックして [ローカル HDD 設定] に移動します。

- ⑤ **[HDD プロパティ]**を**[冗長]**に設定します。**[適用]**をクリックして設定を保存します。**[OK]**をクリックすると**[HDD 情報]**に戻ります。冗長化したいHDDのプロパティが**[冗長性]**に変更されていることを確認してください。




- ⑥  **[メニュー]** >  **[録画]** > **[エンコードパラメータ]** > **[詳細設定]**に移動します。

注記： **[エンコードパラメータ]**はカメラ非接続時、表示されません。

- ⑦ **[冗長録画]**チェックボックスにチェックを入れてしてクリックして、**[OK]**をクリックして設定を保存します。



11. 録画

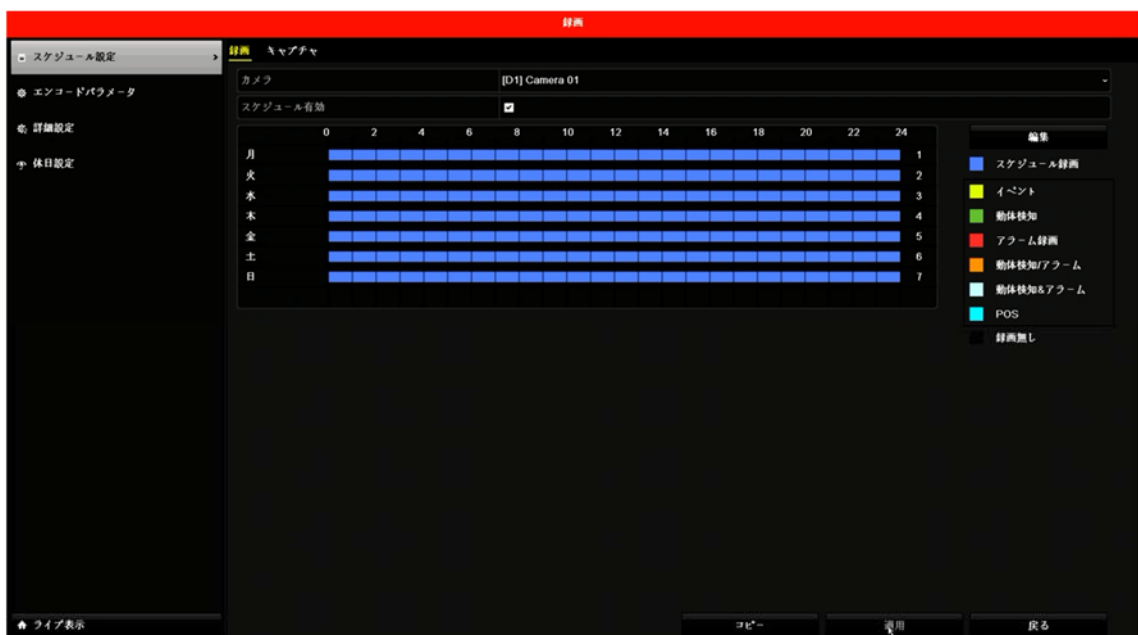
オプション1: ツールバーによる録画

ライブビューモードでは、接続されたカメラのウィンドウを選択して、ツールバーの  アイコンをクリックすると録画を開始できます。アイコンが赤色のときは録画実行中です。アイコンが灰色のときは録画停止中です。

オプション2: スケジュール録画の設定

デフォルト設定は毎日 24 時間録画するスケジュール録画で設定されています。

- ① マウス右クリックでメニューを開き、 **[メニュー]** >  **[録画]** > **[スケジュール設定]** を選択し、録画面面に移動します。



- ② **[カメラ]** リストから録画対象とするカメラを選択します。
- ③ **[スケジュール有効]** のチェックボックスにチェックをしてください。デフォルト設定ではチェックが入った状態になっております。
- ④ **[編集]** ボタンを押して編集画面に移動してください。
- ⑤ **[平日]** リストから編集する曜日を選択してください。

編集

平日		月		
終日	<input checked="" type="checkbox"/>		タイプ	スケジュール録画
開始/終了時刻	00:00-00:00	<input type="radio"/>	タイプ	スケジュール録画
開始/終了時刻	00:00-00:00	<input type="radio"/>	タイプ	スケジュール録画
開始/終了時刻	00:00-00:00	<input type="radio"/>	タイプ	スケジュール録画
開始/終了時刻	00:00-00:00	<input type="radio"/>	タイプ	スケジュール録画
開始/終了時刻	00:00-00:00	<input type="radio"/>	タイプ	スケジュール録画
開始/終了時刻	00:00-00:00	<input type="radio"/>	タイプ	スケジュール録画
開始/終了時刻	00:00-00:00	<input type="radio"/>	タイプ	スケジュール録画
開始/終了時刻	00:00-00:00	<input type="radio"/>	タイプ	スケジュール録画

- ⑥ デフォルト設定で[終日]のチェックボックスにチェックが入っており 24 時間録画になっています。時間ごとに録画方式を変更する場合、チェックボックスを外してください。外すことで時間ごとに録画方式を指定することができます。録画方式は、スケジュール録画、イベント、動体検知、アラーム録画、動体検知/（または）アラーム、動体検知&アラームを設定できます。
- ⑦ [適用]をクリックして設定を保存します。

12. 再生

HDD に録画された映像ファイルの再生方式には、インスタント再生、指定チャンネルの全日再生、および、通常/スマート/サブピリオド/外部ファイルの再生による再生があります。


- ① 再生したいカメラのライブビュー用ウィンドウ上でマウス右クリックし、メニューを開き、 **[再生]**をクリックして再生インターフェイスを開きます。
- ② リストでチャンネルのチェックボックスを選択してから、カレンダーの日付をダブルクリックで選択します。
- ③ 再生インターフェイスの一番下にあるツールバーで再生の進め方を制御することができます。



図 再生インターフェイス

- ④ チャンネルを選択して複数チャンネルの同時再生を実行します。**[最大再生カメラ数]**をクリックすると NVR に接続しているすべてのカメラを選択します。**[最小再生カメラ数]**をクリックすると現在選択しているカメラのみの録画を選択します。

13. イベントおよびアラーム設定

13.1 監視スケジュールの設定

- ① [メニュー]>[カメラ]に移動します。
- ② [動体検知]、[タンパリングアラーム/或者カメラ妨害アラーム]、[ビデオロス]、[VCA]にある各[処理方式]の歯車アイコンをクリックします。
- ③ [アラームスケジュール]をクリックします。
- ④ [週]欄にあるドロップダウンリストから週の中の日を選択します。最大8件の時間帯を各曜日に設定できます。

注記:

時間帯を繰り返したり重複させたりすることはできません。

- ⑤ [適用]をクリックして設定を保存します。



図: 監視スケジュールの設定

13.2 アラームアクションの設定

- ① [メニュー]>[カメラ]に移動します。
- ② [動体検知]、[タンパリングアラーム/或者カメラ妨害アラーム]、[ビデオロス]、[VCA]にある各[処理方式]の歯車アイコンをクリックします。
- ③ [リンケージアクション]をクリックしてアラームリンクアクションを設定します。



図：リンクアクションの設定

- ④ 設定したいアラームリンクアクションのチェックボックスをチェックし、アラームがトリガーされた際のアラーム出力を選択します。

●ポップアップアラーム画面：

アラームがトリガーされると、アラームを発するチャンネルからのビデオ画像をローカルモニターに全画面で表示します。複数チャンネルで同時にアラームが起動した場合、全画面画像が10秒間隔（デフォルトの滞留時間）で切り替わります。[システム] > [ライブビュー] > [全画面モニター滞留時間]で異なる滞留時間を設定できます。自動切替はアラームが停止すると終了し、ライブビューインターフェイスに戻ります。

注記：

[トリガーチャンネル]設定で全画面モニタリングをトリガーしたいチャンネルを選択する必要があります。

●音声警報：

アラームが検知された際に、ビープ音が鳴ります。

●**監視センター通報（現在、使用できません）：**

イベント発生時に異常やアラーム信号を遠隔アラームホストに送信します。アラームホストとはリモートクライアントをインストールした PC を指します。

注記：

遠隔アラームホストが設定されている場合、アラーム信号は自動的に検知モードで送信されます。

●**E メール送信：**

アラーム検知時にアラーム情報付きの E メールをユーザーに送信します。

⑤ **[適用]**をクリックして設定を保存します。

13.3 動体検知アラームの設定

動体検知を使用すると、デバイスは監視エリア内で移動する物体を検知し、アラームをトリガーします。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [動体検知]に移動します。
- ② [カメラ]欄から設定するカメラを選択します。
- ③ [動体検知有効]をチェックします。
- ④ プレビュー画面で動体検知エリアを設定します。
 - フルスクリーン:クリックすると、画像の全画面を動体検知に設定します。
 - カスタムエリア:マウスでプレビュー画面上をクリックアンドドラッグして動体検知エリア(複数可)をカスタム指定します。

[クリア]をクリックすると現在の動体検知領域の設定を消去して、再度指定することができます。

- ⑤ [感度]のスライダーを動かして、感度を設定します。感度範囲は 0~100 です。感度は動作に対してどれだけ敏感にアラームをトリガーするかであり、値が高くなるほどより敏感に動体検知がトリガーされるようになります。
- ⑥ [処理方式]の歯車アイコンをクリックし、監視スケジュールを設定します。13.1章を参照してください。
- ⑦ [処理方式]の歯車アイコンをクリックし、アラームリンクアクションを設定します。13.2章を参照してください。
- ⑧ [適用]をクリックして設定を保存します。



図: 動体検知の設定

13.4 ビデオロス（損失）アラームの設定

目的:

ビデオ損失検知はチャンネルのビデオ損失を検知し、アラーム反応アクションを実行します。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [ビデオロス]に移動します。
- ② [カメラ]欄から設定するカメラを選択します。
- ③ [ビデオロスアラーム有効]をチェックします。
- ④ [処理方式]の歯車アイコンをクリックし、監視スケジュールを設定します。
13.1章を参照してください。
- ⑤ [処理方式]の歯車アイコンをクリックし、アラームリンクアクションを設定します。13.2章を参照してください。
- ⑥ [適用]をクリックして設定を保存します。



図: ビデオ損失検知の設定

13.5 ビデオ干渉アラーム（タンパリングアラーム/或者カメラ妨害アラーム）の設定

目的:

ビデオ干渉検知はカメラのレンズが遮蔽された場合、アラームを起動して、アラーム反応アクションを実行します。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [タンパリングアラーム/或者カメラ妨害アラーム]に移動します。

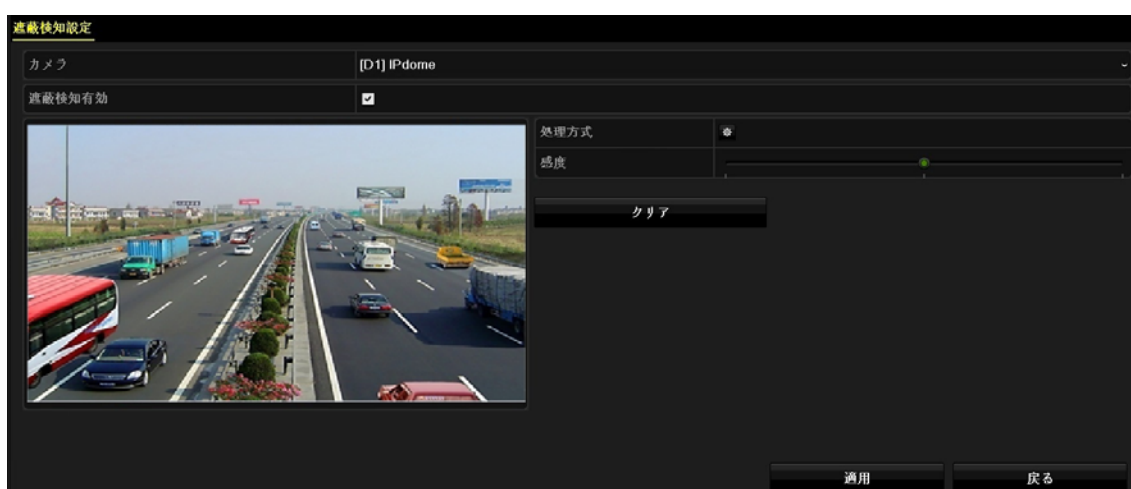


図: ビデオ干渉検知の設定

- ② [カメラ]欄から設定するカメラを選択します。
- ③ [遮蔽検知有効]をチェックします。
- ④ プレビュー画面でビデオ干渉エリアを設定します。
 - フルスクリーン: クリックすると、画像の全画面を動体検知に設定します。
 - カスタムエリア: マウスでプレビュー画面上をクリックアンドドラッグしてビデオ干渉エリア(複数可)をカスタム指定します。

[クリア]をクリックすると現在のビデオ干渉エリアの設定を消去して、再度指定することができます。

- ⑤ [感度]のスライダーを動かして、感度を設定します。感度範囲は0~2です。感度は動作に対してどれだけ敏感にアラームをトリガーするかを定義しま

す。値が高くなるほどより敏感にビデオ干渉検知がトリガーされるようになります。

- ⑥ **【処理方式】**の歯車アイコンをクリックし、監視スケジュールを設定します。
- ⑦ **【処理方式】**の歯車アイコンをクリックし、アラームリンクアクションを設定します。13.2章を参照してください。
- ⑧ **【適用】**をクリックして設定を保存します。

13.6 センサアラームの設定

目的:

外部センサアラームの処理アクションを設定します。

13.6.1 アラーム入力の設定

- ① [メニュー] > [設定] > [アラーム録画]へ移動し、[アラーム入力]タブをクリックして移動します。
- ② [アラーム入力 No.]欄のドロップダウンリストから設定したいアラームを選択します。
- ③ [アラーム名]欄でアラーム名を編集します。
- ④ [タイプ]欄でアラーム入力種別を N.C または N.O から選択します。
- ⑤ [有効]にチェックを入れます。
- ⑥ [処理方式]の歯車アイコンをクリックし、監視スケジュールを設定します。13.1章を参照してください。
- ⑦ [処理方式]の歯車アイコンをクリックし、アラームリンクアクションを設定します。13.2章を参照してください。
- ⑧ [適用]をクリックして設定を保存します。

アラーム状態 アラーム入力 アラーム出力	
アラーム入力 No.	ローカル<-1
アラーム名	
タイプ	N.O
有効	<input type="checkbox"/>
ファンキ - 警戒解除を有効化	<input type="checkbox"/>
処理方式	⚙

コピー 適用 戻る

図: アラーム入力

13.6.2 ワン(1)キー監視解除の設定

ワン(1)キー監視解除はデバイスのアラーム入力 1 をワン(1)キー操作で解除することができます。

- ① [メニュー] > [設定] > [アラーム録画]へ移動し、[アラーム入力]タブをクリックして移動します。
- ② [アラーム入力 No.]欄のドロップダウンリストから設定したいアラームを選択します。
- ③ [アラーム名]欄でアラーム名を編集します。
- ④ [タイプ]欄でアラーム入力種別を N.C または N.O から選択します。
- ⑤ [ワンキー警戒解除を有効化]にチェックを入れます。
- ⑥ [処理方式]の歯車アイコンをクリックし、ローカルアラーム入力1で解除したいアラームリンクアクション（複数可）を設定します。設定したいアラームリンクアクションにチェックを入れてください。

注記:

アラーム入力 1(ローカル<-1)はでワン(1)キー監視解除を有効化すると、他のアラーム入力設定は設定できません。

- ⑦ [適用]をクリックして設定を保存します。



図：1 キー監視解除解除

13.6.3 アラーム出力の設定

アラーム起動時にアラーム出力を起動します。

- ① [メニュー] > [設定] > [アラーム録画]へ移動し、[アラーム出力]タブをクリックして移動します。
- ② [アラーム出力 No.]欄のドロップダウンリストから設定したいアラームを選択します。
- ③ [アラーム名]欄でアラーム名を編集します。
[アラーム出力時間]欄で滞留時間(アラーム持続時間)を5秒/10秒/30秒/60秒/120秒/300秒/600秒までの間で選択するか[手動でクリア](アラームが発生した場合は、アラームを手動でクリアする必要がある)を選択します。
- ④ [処理方式]の歯車アイコンをクリックし、監視スケジュールを設定します。
13.1章を参照してください。
- ⑤ [適用]をクリックして設定を保存します。



図: アラーム出力

13.6.4 異常アラームの設定

異常イベント設定すると、ライブビューウィンドウ上でイベントのヒントを確認したり、アラーム出力やリンクアクションをトリガーすることができます。


- ① [メニュー] > [設定] > [状態異常設定]へ移動します。
- ② 必要に応じて、ライブビューウィンドウ内でのイベントのヒントを表示したい場合は[イベント提示有効にする]にチェックを入れて有効にします。
- ③ [イベント提示設定]欄の  をクリックしてイベントのヒントを表示させる異常の種別(複数可)にチェックを入れて選択します。[OK]ボタンをクリックして設定を保存します。
- ④ [異常検知タイプ]のドロップダウンリストから異常種別を選択してリンクアクション(音声警告/監視センターに送信/メール送信/アラーム出力)を設定します。



図: イベント提示設定



図: 異常処理

13.7 アラームリンクアクションの設定

目的:

イベントヒント表示、全画面モニター、サウンド警告（ブザー）、監視センターへの通知、アラーム出力の起動、Eメール送信を含むアラームや異常が発生した際に、アラームリンクアクションが起動します。

13.7.1 全画面モニタリングの自動切替設定

アラームがトリガーされると、アラームを発するチャンネルからのビデオ画像をローカルモニターに全画面で表示します。アラームが複数のチャンネルで同時にトリガーされる場合、自動切替滞留時間を設定する必要があります。

- ① [メニュー] > [設定] > [ライブ表示]へ移動します。
- ② イベント出力とフルスクリーン表示時間を設定します。
 - **イベント出力:** イベントビデオを表示する出力（HDMI/VGA）を選択します。
 - **フルスクリーン表示時間:** アラームイベント画面を表示する秒単位での時間を設定します。デフォルト値は 10 秒です。複数チャンネルで同時にアラームが起動した場合、全画面画像が設定したフルスクリーン表示時間間隔で切り替わります。
- ③ アラーム検知（例：動体検知、ビデオ干渉、顔検出等）の[リンケージアクション]インターフェイスに移動します。
- ④ [ポップアップアラーム画面]アラームリンクアクションを選択します。
- ⑤ [トリガーチャンネル]設定で全画面モニタリングを行うチャンネル（複数可）を選択してください。

注記:

自動切替はアラームが停止すると終了し、ライブビューインターフェイスに戻ります。

13.7.2 音声警報の設定

音声警報を使用すると、システムがアラームを検知した場合にビーブ音を鳴らします。

- ① [メニュー] > [設定] > [ライブ表示]へ移動します。
- ② [音声出力有効]にチェックを入れます。
- ③ [ボリューム]のスライダーで音量（5段階）を設定します。
- ④ アラーム検知（例：動体検知、ビデオ干渉、顔検出等）の[リンケージアクション]インターフェイスに移動します。
- ⑤ [音声警告]アラームリンクアクションを選択します。

13.7.3 監視センター通報（使用できません）

イベント発生時に異常やアラーム信号を遠隔アラームホストに送信します。アラームホストとはリモートクライアントをインストールしたPCを指します。

13.7.4 Eメールリンクの設定

NVRはアラーム検知するとアラーム情報付きのEメールをユーザに送信します。

- ① [メニュー] > [設定] > [ネットワーク]へ移動し、[Email]タブをクリックして移動します。
- ② Eメール設定を行います。
- ③ アラーム検知（例：動体検知、ビデオ干渉、顔検出等）の[リンケージアクション]インターフェイスに移動します。
- ④ [メール送信]アラームリンクアクションを選択します。

13.7.5 アラーム出力のトリガー

アラーム入力、動体検知、ビデオ干渉検知、顔検出、ライン横断検知およびその他のすべてのイベントにより、アラーム出力をトリガーすることができます。

- ① アラーム入力またはイベント検知(例: 動体検知、顔検出、ライン横断検知、進入検知等)の[リンケージアクション]インターフェイスに移動します。
- ② [アラーム出力]アラームリンクアクションを選択します。
- ③ [メニュー] > [設定] > [アラーム録画]へ移動し、[アラーム出力]タブをクリックして移動します。
- ④ [アラーム出力 No.]でトリガーされるアラーム出力(複数可)を選択します。
- ⑤ アラーム出力の項目をリストから選択します。

13.7.6 PTZ リンクの設定

NVR はアラームイベントまたは VCA 検知イベントが発生すると PTZ アクション (例: プリセット/パトロール/パターンの呼び出し) をトリガーします。

注記:

接続した PTZ が PTZ リンテージに対応しているか確認してください。

- ① アラーム入力または VCA 検知 (例: 顔検出、ライン横断検知、検知等) の [リンクエージアクション] インターフェイスに移動します。
- ② [処理方式] の歯車アイコンをクリックして処理方式へ移動し、[PTZ リンク] タブをクリックして選択します。



図: PTZ リンク

- ③ カメラを選択して PTZ アクションを設定します。
- ④ アラームイベント発生時に呼び出すプリセット/パトロール/パターンの番号を選択します。

注記:

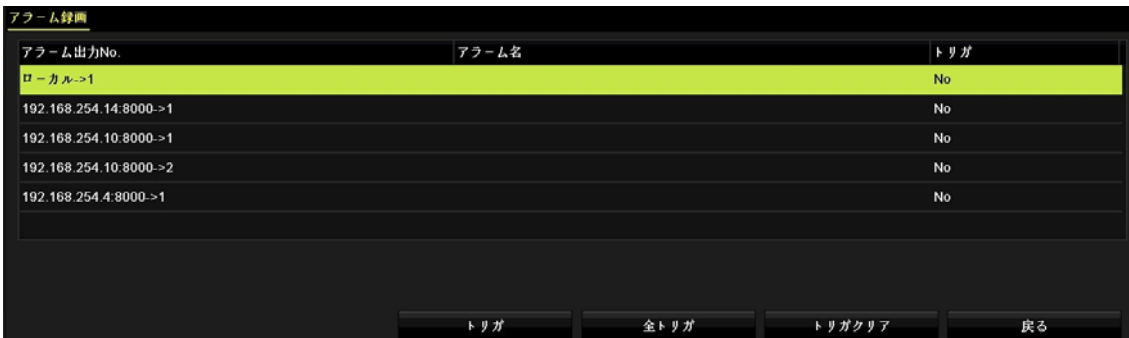
PTZ 種別はリンクアクション 1 回ごとに 1 種類だけ設定できます。

13.8 アラーム出力の手動起動およびクリア

目的:

センサアラームの手動での起動やクリアが可能です。[手動でクリア]がアラーム出力の滞留時間のドロップダウンリストで選択されている場合、アラームは[クリア]ボタンをクリックすることによってしかアラームを消去できません。

- ① [メニュー] > [手動] > [アラーム録画]へ移動します。
- ② 起動またはクリアしたいアラーム出力を選択します。
- ③ [トリガ]/[トリガクリア]ボタンをクリックしてアラーム出力を起動またはクリアします。



アラーム出力No.	アラーム名	トリガ
ローカル->1		No
192.168.254.14:8000->1		No
192.168.254.10:8000->1		No
192.168.254.10:8000->2		No
192.168.254.4:8000->1		No

図: アラーム出力

14. VCA イベントアラーム

デバイスは接続された IP カメラから送られる VCA 検知の受信をサポートしています。まず IP カメラの設定インターフェイスから VCA 検知を設定して有効化してください。

注記:

- VCA 検知は接続 IP カメラがサポートされていなければいけません。
- VCA 検知の詳細な説明についてはネットワークカメラのユーザーマニュアルを参照してください。
- PIR アラームは使用できません。

14.1 顔検出

目的:

顔検出は監視シーンの中に現れる顔を検出します。人間の顔が検出されるとリンクアクションがトリガーされます。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA]に移動します。
- ② [顔検出]をクリックします。



図: 顔検出

- ③ 設定する IP カメラを選択してください。

- ④ [有効] をチェックします。
- ⑤ 必要に応じて、[Save VCA Picture] をチェックして、顔検出のキャプチャ画像を保存できます。
- ⑥ [ルール設定] をクリックします。[感度] のスライダーをクリックアンドドラッグして、検知感度を設定します。感度範囲:[1~5]。値が高いほど、顔を検出しやすくなります。
- ⑦ 監視スケジュールを設定します。
- ① リンクアクションを設定します。
- ② [適用] をクリックして設定を保存します。

14.2 車両の検知（使用できません）

14.3 ライン横断検知（線のクロス検出）

目的:

ライン横断検知は、人物や物が設定ラインの横断をすることを検知します。検知は、左から右や、右から左の双方向で設定可能です。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA] に移動し、[線のクロス検出] をクリックします。
- ② 設定する IP カメラを選択してください。
- ③ [有効] をチェックします。
- ④ 必要に応じて、[Save VCA Picture] をチェックして、ライン横断検知のキャプチャ画像を保存できます。
- ⑤ ライン横断検知のルールを設定します。[ルール設定] をクリックします。[方向] を A<->B、A->B、または A<-B から選択します。[OK] をクリックして設定を保存します。

- ・ [A<->B]: B サイドの矢印のみが表示されます。

設定されたラインを横断する対象を双方向で検知でき、アラームが起動

されることを示しています。

- ・[A→B]:A サイドから B サイドに設定されたラインを通過する対象のみ検知
できます。
- ・[B→A]:B サイドから A サイドに設定されたラインを通過する対象のみ検知
できます。



図:ライン横断検知

- ⑥ ライン横断検知の感度を設定します。[ルール設定]をクリックします。[感度]のスライダーをクリックアンドドラッグして、検知感度を設定します。感度範囲:[1~100]。値が高いほど、検出しやすくなります。[OK]をクリックして設定を保存します。
- ⑦ 検知エリアを設定します。設定する監視領域を選択してください。[線を引く]ボタンをクリックし、プレビューウィンドウで 2 点を指定して仮想ラインを指定します。
- ⑧ 監視スケジュールを設定します。
- ⑨ リンクアクションを設定します。
- ⑩ [適用]をクリックして設定を保存します。

14.4 エリア侵入検知

目的:

エリア侵入検知機能は、事前定義された仮想範囲に進入あるいは徘徊する人物、車両またはオブジェクトを検知し、アラーム起動時に特定のアクションを実行できます。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA]に移動し、[エリア侵入検知]をクリックします。
- ② 設定する IP カメラを選択してください。
- ③ [有効]をチェックします。



図: エリア侵入検知

- ④ 必要に応じて、[Save VCA Picture]をチェックして、エリア侵入検知のキャプチャ画像を保存できます。
- ⑤ 検知のルールを設定します。[ルール設定]をクリックします。

[値]のスライダーで時間しきい値を調整します。検知エリア内対象の滞在時間が時間しきい値より長い場合、NVR はアラームを起動します。範囲は[1 秒 ~ 10 秒]です。

[感度]のスライダーをクリックアンドドラッグして、検知感度を設定します。感度範囲:[1~100]です。値が高いほど、検出しやすくなります。

[率]はアラームトリガーとなりうる対象が検知エリア内に入っている比率です。例えば、[率]が 50%に設定されている場合、範囲に侵入した対象の占有部分が範囲全体の半分に達した際、アラームが起動します。範囲は[1～100]です。

[OK]をクリックして設定を保存します。

- ⑥ 検知エリアを設定します。[四角形を描く]をクリックして、検知範囲の4つの角を指定してプレビューウィンドウに四角形を描きます。
- ⑦ 監視スケジュールを設定します。
- ⑧ リンクアクションを設定します。
- ⑨ [適用]をクリックして設定を保存します。

14.5 領域進入検知（検知区域入る）

目的:

領域進入検知機能は事前定義した仮想領域に外部から入ってくる対象を検知します。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA]に移動し、[検知区域入る]をクリックします。
- ② 設定する IP カメラを選択してください。
- ③ [有効]をチェックします。
- ④ 必要に応じて、[Save VCA Picture]をチェックして、領域進入検知のキャプチャ画像を保存できます。
- ⑤ 検知のルールを設定します。[ルール設定]をクリックします。[感度]のスライダーをクリックアンドドラッグして、検知感度を設定します。感度範囲:[1~100]です。値が高いほど、検出しやすくなります。



図: 領域進入検知

- ⑥ 検知エリアを設定します。[四角形を描く]をクリックして、検知範囲の4つの角を指定してプレビューウィンドウに四角形を描きます。
- ⑦ 監視スケジュールを設定します。
- ⑧ リンクアクションを設定します。
- ⑨ [適用]をクリックして設定を保存します。

14.6 領域退出検知（検知区域離れる）

目的:

領域退出検知機能は、事前定義された仮想領域から出ていく対象を検知します。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA]に移動し、[検知区域離れる]をクリックします。
- ② 設定する IP カメラを選択してください。
- ③ [有効]をチェックします。
- ④ 必要に応じて、[Save VCA Picture]をチェックして、領域退出検知のキャプチャ画像を保存できます。



図: 領域退出検知

- ⑤ 検知のルールを設定します。[ルール設定]をクリックします。[感度]のスライダーをクリックアンドドラッグして、検知感度を設定します。感度範囲:[1~100]です。値が高いほど、検出しやすくなります。
- ⑥ 検知エリアを設定します。[四角形を描く]をクリックして、検知範囲の4つの角を指定してプレビューウィンドウに四角形を描きます。
- ⑦ 監視スケジュールを設定します。
- ⑧ リンクアクションを設定します。
- ⑨ [適用]をクリックして設定を保存します。

14.7 放置手荷物検知

目的:

放置手荷物検知は、荷物、財布、危険物など事前定義した仮想範囲に残された物品を検知し、アラーム起動時に一連のアクションを実行します。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA]に移動し、[放置手荷物検知]をクリックします。
- ② 設定する IP カメラを選択してください。
- ③ [有効]をチェックします。
- ④ 必要に応じて、[Save VCA Picture]をチェックして、放置手荷物検知のキャプチャ画像を保存できます。

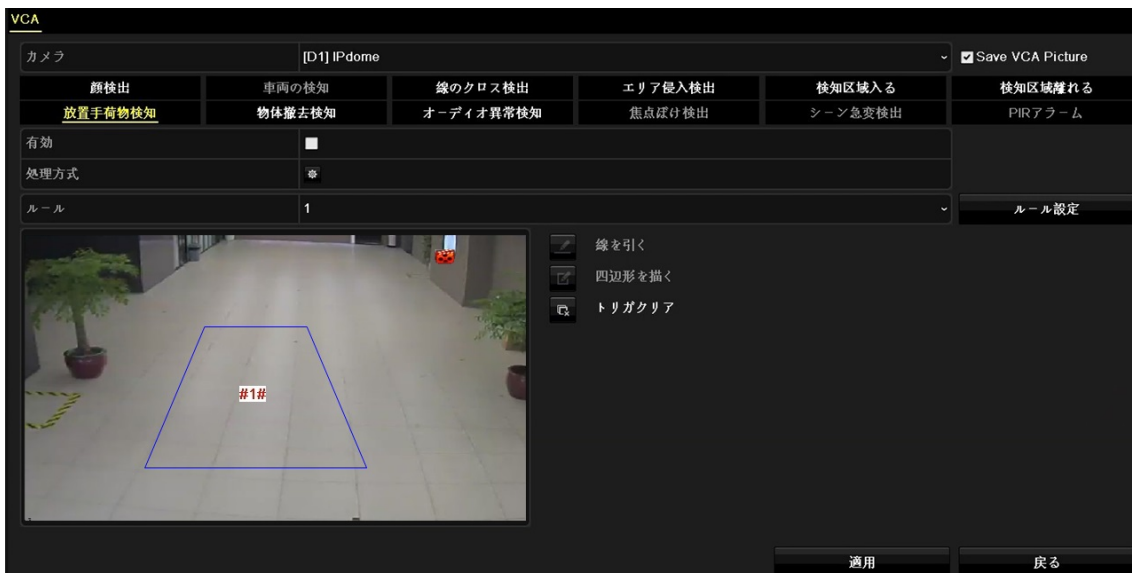


図: 放置手荷物検知

- ⑤ 検知のルールを設定します。[ルール設定]をクリックします。

[値]のスライダーで時間しきい値を調整します。領域内で対象が放置されている時間です。値を 10 すると、範囲内に対象が放置されたまま 10 秒経過するとアラームを起動します。範囲は[5 秒~100 秒]です。

[感度]のスライダーをクリックアンドドラッグして、検知感度を設定します。感度範囲:[1~100]です。値が高いほど、検出しやすくなります。

[OK]をクリックして設定を保存します。

- ⑥ 検知エリアを設定します。[四角形を描く]をクリックして、検知範囲の4つの角を指定してプレビューウィンドウに四角形を描きます。
- ⑦ 監視スケジュールを設定します。
- ⑧ リンクアクションを設定します。
- ⑨ [適用]をクリックして設定を保存します。

14.8 物体撤去検知

目的:

物体撤去検知機能は、展示物など、事前定義した仮想範囲から除去された物品を検知し、アラーム起動時に一連のアクションを実行できます。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA]に移動し、[物体撤去検知]をクリックします。

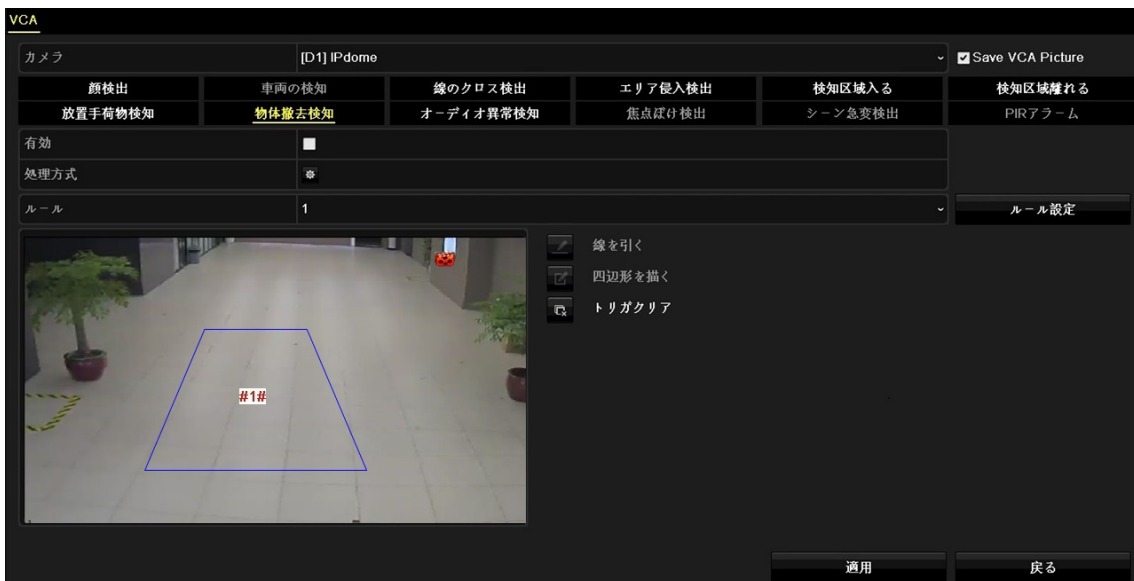


図: 物品撤去検知

- ② 設定する IP カメラを選択してください。
- ③ [有効]をチェックします。
- ④ 必要に応じて、[Save VCA Picture]をチェックして、物体撤去検知のキャプチャ画像を保存できます。
- ⑤ 検知のルールを設定します。[ルール設定]をクリックします。

[値]のスライダーで時間しきい値を調整します。領域内で物品が除去されてからの時間です。値を 10 すると、対象が範囲から除去されてから 10 秒経過した後にアラームを起動します。範囲は[5 秒~100 秒]です。

[感度]のスライダーをクリックアンドドラッグして、検知感度を設定します。感度範囲:[1~100]です。背景画像との類似の度合いを示します。感度が高い場合、非常に小さい物品が範囲から除去されてもアラームを起動できます。

[OK]をクリックして設定を保存します。

- ⑥ 検知エリアを設定します。[四角形を描く]をクリックして、検知範囲の4つの角を指定してプレビューウィンドウに四角形を描きます。
- ⑦ 監視スケジュールを設定します。
- ⑧ リンクアクションを設定します。
- ⑨ [適用]をクリックして設定を保存します。

14.9 オーディオ異常検知

目的:

オーディオ異常検知は監視シーンでの突然の音量の増大や低下などの音声の異常を検知します。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA]に移動し、[オーディオ異常検知]をクリックします。
- ② 設定する IP カメラを選択してください。
- ③ [有効]をチェックします。
- ④ 必要に応じて、[Save VCA Picture]をチェックして、オーディオ異常検知のキャプチャ画像を保存できます。



図:オーディオ異常検知

- ⑤ 検知のルールを設定します。[ルール設定]をクリックします。[Audio Loss Exception] (音声消失異常)、[音の強く急に上がる検出] (音量急上昇検知)、[音の強く急に下がる検出] (音量急定価検知)のチェックボックスをチェックします。

・ [音の強く急に上がる検出] (音量急上昇検知): 監視シーンにおける音声の急激な上昇を検知します。検知感度や音声上昇度合のしきい値を設定できます。[感度]および[音響インテンシティ値] (音響強度しきい値)を設定してください。

・[感度]:値が低いほど検知をトリガーするのにより大きな変化が必要になります。範囲は[1~100]です。

・[音響インテンシティ値](音響強度しきい値):環境における音声をフィルタリングできます。環境音が大きいほど、この値を高くする必要があります。環境に合わせて調整してください。範囲は[1~100]です。

・[音の強く急に下がる検出](音量急定価検知):監視シーンの音声の急激な低下を検知します。[感度]の範囲[1-100]を設定する必要があります。

[OK]をクリックして設定を保存します。

- ⑥ 監視スケジュールを設定します。
- ⑦ リンクアクションを設定します。
- ⑧ [適用]をクリックして設定を保存します。

14.10 シーン急変検出

目的:

シーン急変検出は意図的なカメラの回転など、外的要素の影響による監視環境の変化を検知します。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA]に移動し、[シーン急変検出]をクリックします。
- ② 設定する IP カメラを選択してください。



図: シーン急変検出

- ③ [有効]をチェックします。
- ④ 必要に応じて、[Save VCA Picture]をチェックして、シーン急変検知のキャプチャ画像を保存できます。
- ⑤ 検知のルールを設定します。[ルール設定]をクリックします。[感度]のスライダーをクリックアンドドラッグして、検知感度を設定します。感度範囲は [1~100] です。感度の値が高いほど、シーンの変化に対してより容易にアラームがトリガーされます。[OK]をクリックして設定を保存します。
- ⑥ 監視スケジュールを設定します。
- ⑦ リンクアクションを設定します。
- ⑧ [適用]をクリックして設定を保存します。

14.11 焦点ぼけ検出

目的:

レンズのフォーカスが外れて映像がぼやけた場合に検出することができます。

- ① [メニュー] > [カメラ] > [VCA]に移動し、[焦点ぼけ検出]をクリックします。
- ② 設定する IP カメラを選択してください。
- ③ [有効]をチェックします。
- ④ 必要に応じて、[Save VCA Picture]をチェックして、焦点ぼけ検出のキャプチャ画像を保存できます。
- ⑤ 検知のルールを設定します。[ルール設定]をクリックします。[感度]のスライダーをクリックアンドドラッグして、検知感度を設定します。感度範囲は [1~100]です。感度の値が高いほど、映像のピント外れを検出しやすくなります。 [OK]をクリックして設定を保存します。
- ⑥ 監視スケジュールを設定します。
- ⑦ リンクアクションを設定します。
- ⑧ [適用]をクリックします。



図:焦点ぼけ検出

15. スマート解析

VCA 検知とともに設定すると、デバイスは人物カウントおよびヒートマップのスマート解析をサポートできるようになります。

15.1 人物カウント

目的:

カウントは、特定の設定されたエリアで進入または退出した人数の計算に使用され、日次/週次/月次/年次のレポートにして分析できます。人物カウント機能は、接続した IP カメラがそれをサポートしており、対応する設定が行われている必要があります。

- ① [メニュー] > [VCA 検索] > [人数計数]に移動します。
- ① カメラを選択します。
- ② [レポートタイプ]を日(次)報告書、週(次)報告書、月(次)報告書、年(次)報告書から選択します。
- ③ [統計時間]で、解析を行う日付を指定し、[統計]ボタンをクリックします。人物カウントのグラフが表示されます。



図: 人物カウントインターフェイス

- ⑤ 必要に応じて、[エクスポート]をクリックしてレポートを EXCEL 形式でエクスポートします。

15.2 ヒートマップ

目的:

ヒートマップは、データのグラフィック表示です。ヒートマップ機能は通常、特定のエリアにどれだけの数の人が訪れ、そこにとどまったかを解析するのに利用されます。ヒートマップ機能は、接続した IP カメラがそれをサポートしており、対応する設定が行われている必要があります。

- ① [メニュー] > [VCA 検索] > [ヒートマップ]に移動します。
- ② カメラを選択します。
- ③ [レポートタイプ]を日(次)報告書、週(次)報告書、月(次)報告書、年(次)報告書から選択します。
- ④ [統計時間]で、解析を行う日付を指定し、[統計]ボタンをクリックすると、色分けされたヒートマップが表示されます。

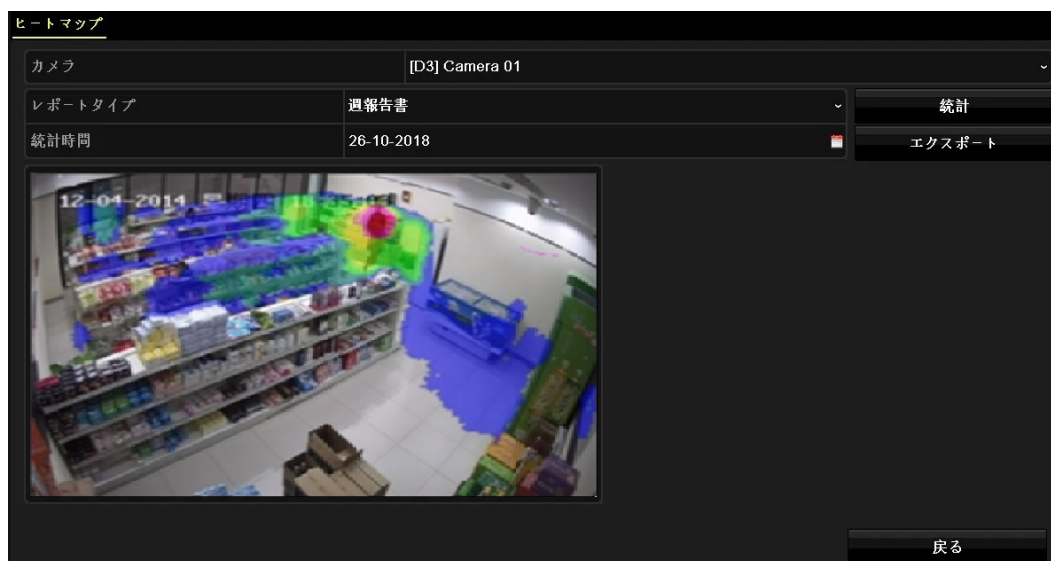


図: ヒートマップインターフェイス

注記:

上記の図表のとおり、赤色のブロック (255, 0, 0) は訪問頻度の高いエリアで、青色のブロック (0, 0, 255) は訪問頻度の低いエリアを示します。

必要に応じて、[エクスポート]ボタンをクリックして統計レポートを EXCEL 形式でエクスポートします。

16. ネットワーク設定

16.1 TCP/IP の設定

目的

ネットワーク経由でデバイス进行操作する場合、事前に TCP/IP の設定を適切に行っておく必要があります。

- ① [設定] > [ネットワーク] へ移動し、[一般的なコントロール] タブをクリックします。



The screenshot shows a network configuration page with the following settings:

一般的なコントロール			
NICタイプ	10M/100M/1000M 適応		
DHCP有効	<input type="checkbox"/>		
IPv4アドレス	192.168.1.64	IPv6 アドレス1	fe80::5a03:fbff:fec8:6796/64
IPv4サブネットマスク	255.255.255.0	IPv6 アドレス2	
IPv4デフォルトゲートウ...		IPv6 デフォルトゲート...	
MACアドレス	58:03:fb:c8:67:96		
MTU (バイト)	1500		
DNSサーバーアドレスの自動取得を有効化	<input type="checkbox"/>		
優先DNSサーバ			
代替DNSサーバ			
内部NIC IPv4アドレス	192.168.254.1		

Buttons: 適用, 戻る

図: TCP/IP 設定

- ② 必要に応じてネットワークパラメータを設定してください。

注記:

- ネットワーク上で DHCP サーバが利用可能な場合、[DHCP 有効] をチェックすると IP 設定を自動的に取得できます。
 - 適正な MTU 値の範囲は 500~1500 です。
- ③ [適用] をクリックします。

16.2 DDNS の設定

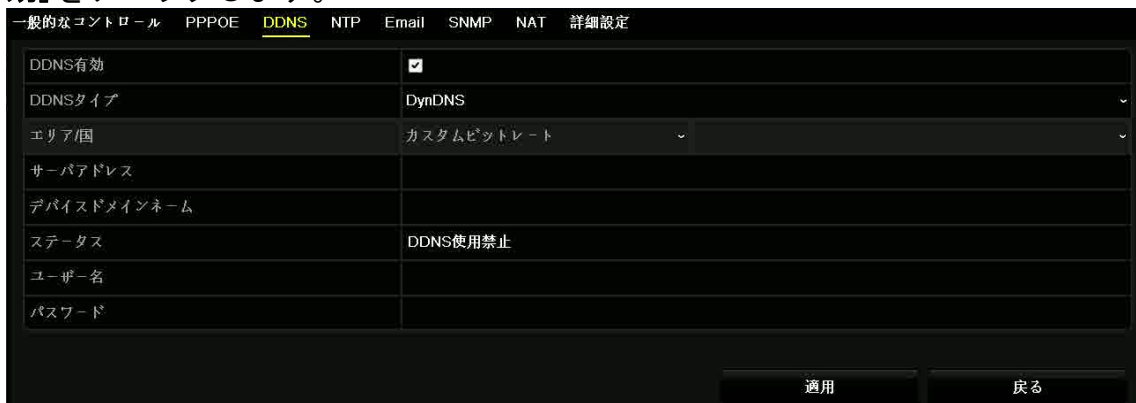
目的

ネットワークアクセスのためのダイナミック DNS サービスが設定できます。以下の DDNS モードが利用可能です: DynDNS、PeanutHull および NO-IP。

始める前に

DDNS の設定を行う前に、ご利用の ISP に DynDNS、PeanutHull または NO-IP サービスを登録する必要があります。

- ① [設定] > [ネットワーク] へ移動し、[DDNS] タブをクリックし、[DDNS 有効] をチェックします。



一般的なコントロール PPPOE <u>DDNS</u> NTP Email SNMP NAT 詳細設定	
DDNS有効	<input checked="" type="checkbox"/>
DDNSタイプ	DynDNS
エリア/国	カスタムビットレート
サーバーアドレス	
デバイスドメインネーム	
ステータス	DDNS使用禁止
ユーザー名	
パスワード	

適用 戻る

図: DDNS 設定

- ② [DDNS タイプ] として DynDNS を選択します。

注記:

PeanutHull および NO-IP も DDNS 種別として利用可能です。必要な情報は適宜入力する必要があります。

- ③ [サーバーアドレス] に DynDNS のサーバーアドレス (例: members.dyndns.org) を入力します。
- ④ [デバイスドメインネーム] で、DynDNS の Web サイトから取得したドメイン名を入力します。
- ⑤ DynDNS の Web サイトで登録された [ユーザー名] と [パスワード] を入力します。
- ⑥ [適用] ボタンをクリックして設定を保存します。

16.3 PPPoE の設定

NVR が PPPoE 経由でインターネットに接続されている場合、ユーザー名とパスワードを適宜設定する必要があります。

注記:

PPPoE サービスの詳細についてはご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

- ① [設定] > [ネットワーク]へ移動し、[PPPOE]タブをクリックして移動し、[PPPoE 有効]をチェックします。



図: PPPoE 設定

- ② ご利用のインターネットサービスプロバイダから指定された[ユーザー名]と[パスワード]を入力します。

16.4 NTP の設定

目的

ネットワークタイムプロトコル (NTP) サーバに対する接続を設定してデバイスの日付/時間の精度を保証できます。

- ① **[設定]** > **[ネットワーク]**へ移動し、**[NTP]**タブをクリックして移動し、**[NTP 有効]**をチェックします。



項目	設定値
NTP有効	<input checked="" type="checkbox"/>
間隔(分)	60
NTPサーバ	
NTPポート	123

図:NTP 設定

- ② 必要に応じて NTP 設定を行います。

[間隔(分)]:NTP サーバとの時刻同期を行う間隔です。

[NTP サーバ]:NTP サーバの IP アドレスです。

[NTP ポート]:NTP サーバのポートです。

- ③ **[適用]**をクリックします。

16.5 SNMP の設定

目的

SNMP を設定してデバイス状態やパラメータ情報を取得できます。

始める前に

SNMP ポート経由でデバイス情報を受信するための SNMP ソフトウェアをダウンロードします。トラップアドレスおよびポートを設定することで、デバイスからアラームイベントおよび異常についてのメッセージを監視センターに送信することができます。

① **[設定]** > **[ネットワーク]**へ移動し、**[SNMP]**タブをクリックして移動します。



図:SNMP 設定

② **[SNMP 有効]** をチェックします。セキュリティリスクの可能性について確認を求めるメッセージが表示されるので**[Yes]** をクリックして継続してください。

③ 必要に応じて SNMP 設定を行います。

[トラップアドレス]:SNMP ホストの IP アドレスです。

[トラップポート]:SNMP ホストのポートです。

④ **[適用]** をクリックします。

16.6 Eメールの設定

目的

アラームや動体イベント検知時、または管理者パスワードが変更されたときなど、特定のイベントが発生したときに、指定したすべてのユーザーに E メール通知を送信するようにシステムを設定することができます。

始める前に

デバイスが、SMTP メールサーバを管理するローカルエリアネットワーク (LAN) に接続されている必要があります。また、そのネットワークも、通知を送信したい E メールアカウントの場所に合わせたイントラネットやインターネットに接続されている必要があります。

- ① [設定] > [ネットワーク]へ移動し、[Email]タブをクリックして移動し、[サーバ認証有効]をチェックします。



一般的なコントロール		PPPOE	DDNS	NTP	Email	SNMP	NAT	詳細設定
サーバ認証有効	<input checked="" type="checkbox"/>							
SMTPサーバ								
ユーザー名								
パスワード								
SMTPポート	25							
SSL/TLS有効	<input type="checkbox"/>							
差出人								
差出人アドレス								
宛先の選択	宛先 1							
宛先								
宛先アドレス								
画像添付有効	<input type="checkbox"/>							
間隔	2秒							
テスト 適用 戻る								

図: Eメール設定

- ② 以下の E メール設定を行います。

- ・ [SMTP サーバ]: SMTP サーバの IP アドレスまたはホスト名です。
(例: smtp.263xmail.com)
- ・ [SMTP ポート]: SMTP ポートです。SMTP に使用されているデフォルト TCP/IP ポートは 25 です。
- ・ [SSL/TLS 有効]: SMTP サーバが必要とする場合、チェックして SSL/TLS を有効化します。
- ・ [差出人]: 送信者の名前です。

- ・ [差出人アドレス]:送信者のアドレスです。
 - ・ [宛先の選択]:受信者を選択します。最大3人の受信者を設定できます。
 - ・ [宛先]:受信者の名前です。
 - ・ [宛先アドレス]:通知を受けるユーザのEメールアドレスです。
 - ・ [画像添付有効]:アラームの画像をEメールに添付して送信したい場合、チェックして機能を有効化してください。
 - ・ [間隔]:連続する2つのアラーム画像の間の時間です。
- ③ [適用]ボタンをクリックして設定を保存します。
- ④ 必要に応じて、[テスト]ボタンをクリックしてテストメールを送信します。

16.7 NAT の設定

外部ポート番号を変更することが可能です。

- ① [設定] > [ネットワーク]へ移動し、[NAT]タブをクリックして移動し、[UPnP有効]をチェックします。



図:NAT 設定

- ② 必要に応じて、[ポートタイプ]リストの編集ボタンをクリックし、[外部ポート設定]へ移動し、外部ポートの数値の編集を行います。
- ③ [OK]をクリックして外部ポートの数値を保存します。
- ④ [適用]をクリックして NAT 設定を保存します。

16.8 ポートの設定

対応する機能を有効化するために異なる種別のポートを設定できます。

- ①[設定] > [ネットワーク]へ移動し、[詳細設定]タブをクリックして移動し、[サーバ認証有効]をチェックします。



アラームホスト IP	
アラームホストポート	0
サーバポート	8000
HTTPポート	80
マルチキャスト IP	
RTSPポート	554

図: ポート設定

- ②必要に応じて適宜ポート設定を行います。

- ・ [アラームホスト IP]/[アラームホストポート]: 遠隔アラームホストを設定すると、アラーム起動時にデバイスがアラームイベントや異常メッセージをホストに送信します。遠隔アラームホストにはクライアント管理システム (CMS) ソフトウェアをインストールしておく必要があります。

アラームホスト IP は、CMS (クライアント管理システム) ソフトウェア (iVMS-4200 など) がインストールされている遠隔 PC の IP アドレスを示します。アラームホストポート (デフォルトポートは 7200) は、ソフトウェアに設定されたアラーム管理ポートと同じにする必要があります。

- ・ [サーバポート]: 遠隔クライアントソフトウェアによるアクセスにはサーバポート (デフォルトは 8000) の設定が必要です。有効な範囲は 2000~65535 です。
- ・ [HTTP ポート]: リモート Web ブラウザアクセスには HTTP ポート (デフォルトは 80) の設定が必要です。
- ・ [マルチキャスト IP]: マルチキャストはネットワーク経由で許可される最大数を超えるカメラのライブビューを有効化するために設定することができます。マルチキャスト IP アドレスは 224. 0. 0. 0~239. 255. 255. 255 の範囲のクラス D IP をカバーしていますが、239. 252. 0. 0~239. 255. 255. 255 の範囲の IP アドレスの利用を推奨します。

CMS ソフトウェアにデバイスを追加する場合、マルチキャストアドレスはデバイスのマルチキャスト IP と同じでなければなりません。


- [RTSP ポート]: RTSP (リアルタイムストリーミングプロトコル) は、ストリーミングメディアサーバーを制御するためのエンターテイメントおよび通信システムでの使用を目的としたネットワークコントロールプロトコルです。デフォルトではポート番号は 554 です。

17. 一般システム設定

17.1 S.M.A.R.T. 検知

目的:

デバイスは S.M.A.R.T. や不良セクタ検知技術などを採用し、HDD 検知機能を提供しています。S.M.A.R.T. (自己監視/解析/レポート技術)は、障害を予見するために信頼性に関わる様々な指標値を HDD が検知し、レポートする監視機能です。

- ① [メンテナンス] > [HDD の検出] > [S.M.A.R.T. 設定]に移動します。
- ② HDD を選択すると、S.M.A.R.T. 情報リストが表示されます。
- ③ セルフテストタイプの種別をショートテスト、拡張テストまたは伝達テストから選択します。
- ④ S.M.A.R.T. 欄の  ボタンをクリックすると S.M.A.R.T. のテストを行います。
- ⑤ S.M.A.R.T. 関連情報はこのインターフェイスで表示されます。HDD ステータスを確認できます。



ID	Attribute Name	ステータス	Flags	Threshold	Value	Worst	Raw Value
0x1	Raw Read Error Rate	OK	2f	51	100	253	0
0x3	Spin Up Time	OK	27	21	177	177	4133
0x4	Start/Stop Count	OK	32	0	100	100	20
0x5	Reallocated Sector Count	OK	33	140	200	200	0

図:S.M.A.R.T. 設定インターフェイス

17.2 不良セクタ検知

- ① [メンテナンス] > [HDD の検出] > [不良セクタ検出]に移動します。
- ② 設定を行いたい HDD 番号をドロップダウンリストから選択します。
- ③ 全部検知またはキーエリア検知のいずれかの検知種別をドロップダウンリストから選択します。
- ④ [検出]ボタンをクリックし、検知を開始します。
 - 検知を一時停止/再開またはキャンセルすることもできます。
 - テスト完了後に[エラー情報]ボタンをクリックすることで、損傷情報の詳細を確認することができます。



図:不良セクタ検知

17.3 ログファイルの検索とエクスポート

目的:

デバイスの操作、アラーム、異常および情報はログファイルに保存でき、いつでも確認したりエクスポートしたりできます。

17.3.1 ログファイルの検索

- ① [メンテナンス] > [ログ情報]に移動します。
- ② 時刻、メインリスト（全て・アラーム録画・異常検知設定・操作・チャンネル情報）、サブリスト（アラーム入力・アラーム出力など）を含むログ検索条件を設定します。
- ③ **検索**をクリックしてログファイルの検索を開始します。
- ④ 一致したログファイルが検索結果のリストに表示されます。



図: ログ検索インターフェイス

検索結果						
No.	メインリスト	時間	サブリスト	パラメータ	再生	詳細
1	チャンネル情報	19-10-2018 10:06:51	リモート操作: タグ操作	N/A	—	
2	チャンネル情報	19-10-2018 10:06:51	リモート操作: タグ操作	N/A	—	
3	操作	19-10-2018 10:06:51	電源ON	N/A	—	
4	異常検知設定	19-10-2018 10:07:00	ネットワーク切断	N/A	—	
5	異常検知設定	19-10-2018 10:07:01	IPカメラ切断	N/A		
6	異常検知設定	19-10-2018 10:07:01	IPカメラ切断	N/A		
7	異常検知設定	19-10-2018 10:07:01	IPカメラ切断	N/A		
8	異常検知設定	19-10-2018 10:07:01	IPカメラ切断	N/A		
9	異常検知設定	19-10-2018 10:07:01	IPカメラ切断	N/A		
10	異常検知設定	19-10-2018 10:07:01	IPカメラ切断	N/A		

合計:370 ページ:1/4

エクスポート 戻る

図: ログ検索結果

関連操作:

- チェックアイコンをダブルクリックするとその詳細情報が表示されます。
- ボタンをクリックすると関連するビデオファイルを表示できます。

17.3.2 ログファイルのエクスポート

始める前に:

NVR の USB 端子にストレージデバイスを接続してください。

- ① ログファイルを検索します。
- ② エクスポートしたいログファイルを検索し、[エクスポート]をクリックします。
- ③ エクスポートインターフェイス上で、デバイス名のドロップダウンリストからストレージデバイスを選択します。
- ④ ログファイル (.txt 形式) を指定後に[エクスポート]をクリックして、選択したストレージデバイスへログファイルをエクスポートします。

関連操作:

- ストレージデバイスに新しいフォルダを作成したい場合、[新しいフォルダ]ボタンをクリックします。
- ログのエクスポートの前にストレージデバイスをフォーマットしたい場合、ログ検索インターフェイスの[フォーマット]をクリックします。



図: ログファイルのエクスポート

17.4 IP カメラ設定ファイルのインポート/エクスポート

目的:

追加された IP カメラの IP アドレス、管理用ポート、管理者パスワードなどといった情報はバックアップ用に Excel ファイルにしてローカルデバイスにエクスポートすることができます。エクスポートされたファイルは PC 上で内容を追加したり削除したりといった編集を行うことができ、その設定を Excel ファイルのインポートによって他のデバイスにコピーすることができます。

始める前に:

デバイスにストレージデバイスを接続してください。設定ファイルをインポートするには、ストレージデバイスにファイルが必要です。

- ① [カメラ] を選択後、[カメラインポート/エクスポート] タブをクリックして移動します。
- ② [カメラインポート/エクスポート] には、検出された接続済み外部デバイスの内容が表示されます。
- ③ IP カメラ設定ファイルのエクスポートまたはインポートを行います。
 - [エクスポート] をクリックし、選択されたローカルバックアップデバイスに設定ファイルをエクスポートします。
 - 設定ファイルをインポートするには、選択したバックアップデバイスからファイルを選択してインポートボタンをクリックします。

注記:

インポート処理完了後、設定を有効化するためにリブートする必要があります。



図: IP カメラ設定のインポート/エクスポート

17.5 NVR 設定ファイルのインポート/エクスポート

目的:

NVRの設定ファイルはバックアップ用にローカルデバイスにエクスポートでき、設定ファイルを他のNVRにインポートして同じパラメータを適用することができます。

NVRのUSB端子にストレージデバイスを接続してください。設定ファイルをインポートするには、ストレージデバイスにファイルが必要です。

始める前に:

デバイスにストレージデバイスを接続してください。設定ファイルをインポートするには、ストレージデバイスにファイルが必要です。

- ① [メンテナンス] > [インポート/エクスポート]に移動します。
- ② NVR 設定ファイルのエクスポートまたはインポートを行います。
 - [エクスポート]をクリックし、選択されたローカルバックアップデバイスに設定ファイルをエクスポートします。
 - 設定ファイルをインポートするには、選択したバックアップデバイスからファイルを選択して[インポート]をクリックします。

注記:

設定ファイルのインポートが完了すると、デバイスは自動的にリブートします。



図：設定ファイルのインポート/エクスポート

注記:

下記項目はインポート/エクスポートできません。

- ・ admin のパスワード
- ・ ユーザー情報 (ID および パスワード)
- ・ ONVIF のユーザー情報 (ID および パスワード)
- ・ IP アドレス

17.6 システムのアップグレード

目的:

デバイスのファームウェアはローカルバックアップデバイスまたはリモートのFTPサーバからアップグレードすることができます。

17.6.1 ローカルバックアップによるアップグレード

始める前に:

ファームウェアアップデートファイルが置かれたローカルストレージデバイスをNVRのUSB端子に接続します。

- ① [メンテナンス] > [アップグレード]へ移動し、[ローカルアップグレード]タブをクリックしてローカルアップグレードインターフェイスを開きます。
- ② ストレージデバイスからアップデートファイルを選択します。
- ③ [アップグレード]をクリックしてアップグレードを開始します。
- ④ アップグレードが完了したら新しいファームウェアを有効化するため、NVRを再起動します。



図: ローカルアップグレードインターフェイス

17.6.2 FTP によるアップグレード

始める前に:

FTP サーバが稼働しているパソコンへのネットワーク接続を確認します。パソコン上の FTP サーバを起動し、対応するディレクトリにファームウェアをコピーしておきます。

- ① [メンテナンス] > [アップグレード]へ移動し、[FTP]タブをクリックして FTP アップグレードインターフェイスを開きます。
- ② FTP サーバの IP アドレスをテキストフィールドに入力します。
- ③ [アップグレード]ボタンをクリックしてアップグレードを開始します。
- ④ アップグレードが完了したら新しいファームウェアを有効化するため、NVR を再起動します。

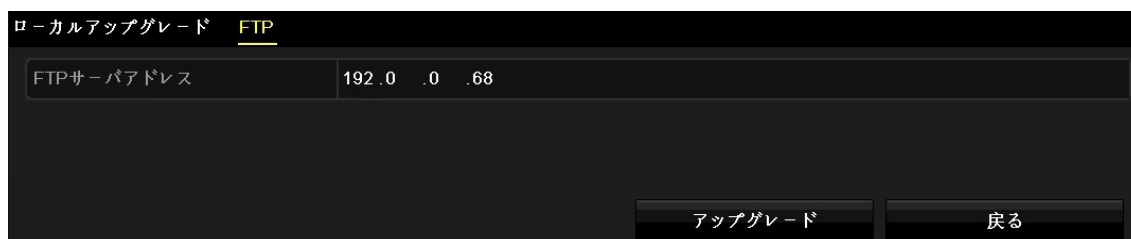


図 : FTP アップグレードインターフェイス

17.7 デフォルト設定の復元

① [メンテナンス] > [デフォルト]に移動します。

② 復元タイプを以下の3つから選択します。

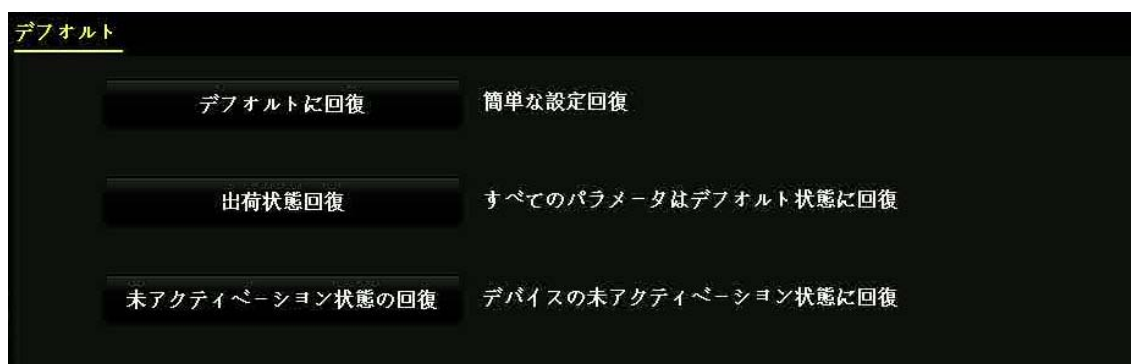
[デフォルトに回復]: ネットワーク関連 (IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC 動作モード、デフォルトルート、サーバポートなど) およびユーザアカウントパラメータを除くすべてのパラメータを工場初期出荷設定に復元します。

[出荷状態回復]: すべてのパラメータを工場初期出荷設定に復元します。

[未アクティベーション状態の回復]: NVR を非アクティブステータスに復元します。

注記:

デフォルト設定への復元が終わるとデバイスは自動的に再起動します。



図：デフォルトの復元

18. 一般システム設定

18.1 一般設定

目的:

言語設定、VGA 出力解像度、HDMI 出力解像度、タイムゾーン、日付の表示形式、システムの日付、システム時間、マウスポインタ速度、セットアップウィザードの ON/OFF、パスワードの有効/無効を [設定] > [一般的なコントロール] インターフェイスから設定できます。

- ① [設定] > [一般的なコントロール] に移動します。
- ② 以下の項目を設定することができます。

[言語]: デフォルトは日本語です。

[VGA 解像度]: VGA 出力端子の解像度を設定します。

デフォルトは 1024x768/60Hz です。

1024x768/60Hz, 1280x720/60Hz, 1280x1024/60Hz, 1920x1080/60Hz (1080P) から選択可能です。

[HDMI 解像度]: HDMI 出力端子の解像度を設定します。

デフォルトは 1024x768/60Hz です。

1024x768/60Hz, 1280x720/60Hz, 1280x1024/60Hz, 1600x1200/60Hz, 1920x1080/60Hz (1080P), 2K (2560x1440)/60Hz, 4K (3840x2160)/30Hz から選択可能です。

[日付の表示形式]: YYYYY-MM-DD (年-月-日) /MM-DD-YYYY (月-日-年) /DD-MM-YYYY (日-月-年) から選択可能です。

[システムの日付]: システムの日付を設定します。

[システム時間]: システム時間を設定します。

[マウススピード]: マウスポインタの速度を 4 段階で設定できます。

[ウィザード有効]: NVR 起動時にセットアップウィザードが立ち上がる機能を有効 (チェックあり) /無効 (チェックなし) にします。デフォルトは有効 (チェックあり) です。

[オペレーションパスワード]: ログインパスワードの使用を有効 (チェックあり) /無効 (チェックなし) にします。デフォルトは有効 (チェックあり) です。

- ③ [適用] ボタンをクリックして設定を保存します。



図：一般設定インターフェイス

18.2 サマータイム設定

サマータイムとは一年の中で時計を一定時間進める期間のことです。世界の一部の地域ではサマータイムにより、気候が最も温暖な数か月の間、夜にかけてより長い日照時間を確保しています。サマータイムが始まると、システムの時計を一定時間(設定された夏時間バイアスに基づいて)進め、標準時間(ST)に戻った時に同じだけ時計を戻します。

- ① [設定] > [一般的なコントロール]に移動し、[サマータイム設定]タブをクリックします。
- ② [サマータイム有効]をチェックします。
- ③ サマータイムモードを自動または手動で設定します。

[自動]：現地のサマータイムルールに基づいて自動的にデフォルトのサマータイム期間を有効化します。有効にするには[サマータイム自動調整]欄のチェックボックスにチェックを入れます。

[マニュアル]：夏時間の期間の開始と終了の日時および夏時間バイアスを手動で設定します。[サマータイム有効]にチェックが入った状態で、[From] (*月/第*週/曜日/*時から)と[To] (*月/第*週/曜日/*時まで)を入力し、[サマータイム調整値]欄で

標準時からのオフセット時間(30/60/90/120分)を設定します。

例:夏時間は60分の前倒しで、3月の第2日曜日の午前2時に始まり、11月の第1日曜日の午前2時に終わる場合、[サマータイム有効]にチェックを入れ、[From](3月/第2週/日/2時)、[To](11月/第1週/日/2時)、[サマータイム調整値]60分を設定する。

④ [適用]ボタンをクリックして設定を保存します。



図:サマータイム設定インターフェイス

18.3 デバイスの設定

① [設定] > [一般的なコントロール]に移動し、[詳細設定]タブをクリックします。

② 以下の項目を設定することができます。

[デバイス名]:NVR の名前を編集します。デフォルトは Network Video Recorder です。

[デバイス No.]:NVR のシリアル番号を編集します。デバイス番号は 1~255 の範囲で設定できます。デフォルト番号は 255 です。この番号はリモート操作およびキーボードでの操作で利用されます。

[スクリーンロックタイム]:メニューの非アクティブ時のタイムアウト時間を設定します。例:タイムアウト時間が5分に設定されている場合、5分間、非アクティブな時間が続くと、NVR はその時点で開かれている操作メニューを閉じ、ライブビュー画面に戻ります。

[メニュー出力]:メニュー出力を自動/HDMI/VGA から選択可能です。デフォルトは 自動 です。

③ [適用]ボタンをクリックして設定を保存します。

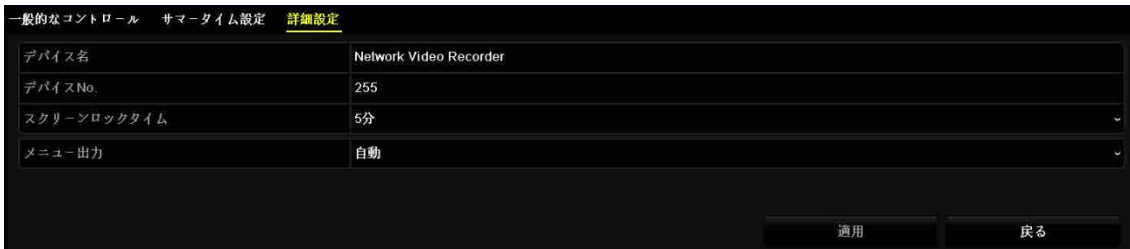


図: 詳細設定インターフェイス

18.4 ユーザーアカウントの管理

目的:

管理者ユーザー名は admin で、パスワードは NVR を最初に使い始めた時に設定します。管理者はユーザーの追加、削除およびユーザーパラメータの設定を行う権限を持っています。

18.5 ユーザーの追加

- ① [設定] > [ユーザー設定]に移動します。



図: ユーザー管理インターフェイス

- ② [追加] ボタンをクリックし、[ユーザー追加] インターフェイスを開きます。
- ③ ユーザー名、管理者パスワード、パスワード、確認(パスワード)、(ユーザー) レベル (オペレーター/ゲスト)、ユーザーMAC アドレスの情報を入力します。

[レベル]:ユーザーのレベルをオペレーターまたはゲストに設定します。レベルによって操作権限が変わります。

オペレーター:デフォルトで、遠隔設定の双方向音声の権限とカメラ設定のすべての操作権限を持っています。

ゲスト:デフォルトで、リモート設定での双方向音声の権限を持っておらず、カメラ設定ではローカル/リモート再生の権限のみを持っています。

[ユーザーMACアドレス]:NVRにログオンするリモートPCのMACアドレスです。これが設定され、有効化されている場合、そのMACアドレスのリモートユーザーだけがデバイスにアクセスできます。

- ④ [OK] ボタンをクリックして設定を保存し、新しいユーザーアカウントの追加を完了します。



項目	値
ユーザー名	A01
管理者パスワード	*****
パスワード	***** 弱い
確認	*****
レベル	オペレーター
ユーザーMACアドレス	00 : 00 : 00 : 00 : 00 : 00

✔ 有効なパスワード範囲は8-16しか、数字で、小文字、大文字、特殊な文字の2種類以上の組み合わせは必要です。

OK キャンセル

図 ユーザー追加




No.	ユーザー名	セキュリティ	レベル	ユーザーMACアドレス	許可	編集	削除
1	admin	弱いパスワード	管理者	00:00:00:00:00:00	-	✎	-
2	A01	弱いパスワード	オペレーター	00:00:00:00:00:00	✔	✎	🗑
3	A02	弱いパスワード	オペレーター	00:00:00:00:00:00	✔	✎	🗑

追加 戻る

図:ユーザーリスト

18.6 ユーザーに対する権限の設定

追加されたユーザーに対して、デバイスのローカルまたはリモート操作を含む個別の権限を割り当てることができます。

- ① [設定] > [ユーザー設定]に移動します。
- ② [ユーザー管理]タブのユーザーリストからユーザーを選択して、許可欄の  ボタンをクリックすると、ユーザー権限設定インターフェイスが開きます。
- ③ ユーザーのローカル設定、リモート設定およびカメラ設定の操作権限を設定します。

●[ローカル設定]タブ

[ローカルログ検索]:NVR のログやシステム情報を検索して表示します。

[ローカルパラメータ設定]:パラメータ設定、工場出荷時デフォルトパラメータの復元および設定ファイルのインポート/エクスポートを行います。

[ローカルカメラ管理]:IP カメラの追加、削除および編集を行います。

[ローカル詳細操作]:HDD 管理操作 (HDD の初期化、HDD プロパティの設定)、システムファームウェアのアップグレード、I/O アラーム出力のクリアを行います。

[ローカルシャットダウン/再起動]:NVR のシャットダウンや再起動を行います。

●[リモート設定]タブ

[リモートログ検索]:NVR で保存したログを遠隔表示します。

[リモートパラメータ設定]:リモートからのパラメータ設定、工場出荷時デフォルトパラメータの復元および設定ファイルのインポート/エクスポートを行います。

[リモートカメラ管理]:リモートからの IP カメラの追加、削除および編集を行います。

[リモートシリアルポートコントロール]:RS-232 および RS-485 ポートの設定を行います。

[リモートビデオ出力コントロール]:リモートボタンコントロール信号を送信します。

[双方向音声]:リモートクライアントと NVR 間の双方向無線通信を実現します。

[リモートアラームコントロール]:リモート監視(リモート端末へのアラームおよび異常メッセージ通知)およびアラーム出力の制御を行います。

[リモート詳細設定]: リモートから HDD 管理操作 (HDD の初期化、HDD プロパティの設定)、システムファームウェアのアップグレード、I/O アラーム出力のクリアを行います。

[リモートシャットダウン/再起動]: デバイスのシャットダウンや再起動を遠隔で行います。

● [カメラ設定] タブ

[リモートライブ表示]: 選択したカメラ (複数可) のライブビデオをリモートから確認します。

[ローカル手動操作]: 選択したカメラ (複数可) の手動録画およびアラーム出力をローカルで開始/停止します。

[リモート手動操作]: 選択したカメラ (複数可) の手動録画およびアラーム出力をリモートから開始/停止します。

[ローカル再生]: 選択したカメラ (複数可) の録画ファイルをローカルで再生します。

[リモート再生]: 選択したカメラ (複数可) の録画ファイルをリモートから再生します。

[ローカル PTZ コントロール]: 選択したカメラ (複数可) の PTZ (パン、チルト、ズーム) 動作をローカルで制御します。

リモート PTZ コントロール: 選択したカメラ (複数可) の PTZ (パン、チルト、ズーム) 動作をリモートから制御します。

ローカルビデオエクスポート: 選択したカメラ (複数可) の録画ファイルをローカルでエクスポートします。

④ [OK] ボタンをクリックして設定を保存します。

注記: 管理者ユーザーアカウントだけが工場出荷時デフォルトパラメータの復元を行う権限を持っています。



図: ユーザー権限設定インターフェイス

18.7 管理者ユーザーの編集

管理者ユーザーアカウントはパスワードをロック解除パターンに変更できます。

- ① [設定] > [ユーザー設定]に移動します。
- ② ユーザー管理リストから管理者ユーザーを選択し、[編集]アイコンをクリックします。
- ③ 必要に応じて、管理者ユーザーの情報を変更します。

[パスワード変更]のチェックボックスをチェックするとパスワード変更が可能になります。




ユーザー編集	
ユーザー名	admin
現在のパスワード	
パスワード変更	<input checked="" type="checkbox"/>
パスワード	
確認	
パターン解除を有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
解除パターンを描く	⚙️
Export GUID	⚙️
ユーザーMACアドレス	00 : 00 : 00 : 00 : 00 : 00

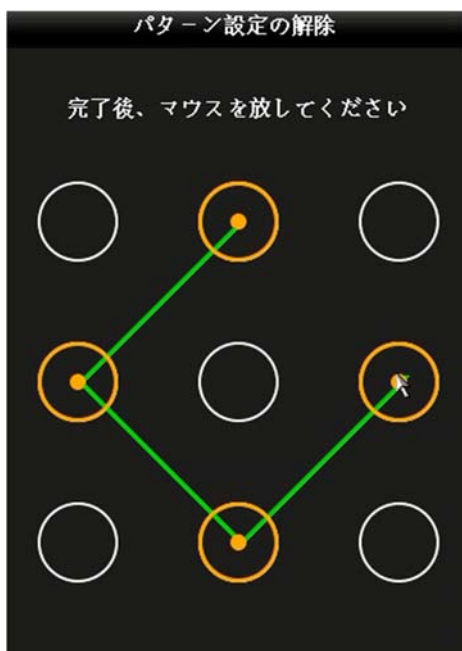
✔️ 有効なパスワード範囲は8-16しか、数字で、小文字、大文字、特殊な文字の2種類以上の組み合わせは必要です。

OK キャンセル


図：ユーザーの編集(管理者)

- ④ 必要に応じて、管理者ユーザーアカウントのロック解除パターンを編集します。[パターン解除を有効化]のチェックボックスをチェックすると、デバイスにログインするときにロック解除パターンを利用できるようになります。[解除パターンを書く]のをクリックすると、パターン設定のインターフェイスが開き、NVRのロック解除パターンを設定できます。マウスを使って画

面上の9つのドットをつないでパターンを描いてください。マウスを離すとパターンは完成です。



図：管理者ユーザーのロック解除パターンの設定

- ⑤ 必要に応じて、[Export GUID]の  をクリックして、パスワードリセットインターフェイスに進み、管理者ユーザーアカウントの GUID ファイルをエクスポートします。事前に NVR の USB 端子にストレージデバイスを接続した上で[エクスポート]ボタンをクリックするとエクスポートできます。
- ⑥ [OK]ボタンをクリックして設定を保存します。


18.8 非管理者ユーザー（オペレーター/ゲスト）の編集

ユーザー名、パスワード、権限レベルおよびMACアドレスを含む、ユーザー情報を編集することができます。

- ① [設定] > [ユーザー設定]に移動します。
- ② ユーザー管理リストからユーザーを選択し、[編集]アイコンをクリックします。

ユーザー編集	
ユーザー名	A01
現在のパスワード	
パスワード変更	<input type="checkbox"/>
パスワード	
確認	
レベル	オペレーター
ユーザーMACアドレス	00 : 00 : 00 : 00 : 00 : 00
<input checked="" type="checkbox"/> 有効なパスワード範囲は8-16しか、数字で、小文字、大文字、特殊な文字の2種類以上の組み合わせが必要です。	
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

図：ユーザーの編集(オペレーター/ゲスト)

- ③ 必要に応じて、パスワードを変更する場合、[パスワード変更]のチェックボックスをチェックし、[パスワード]および[確認]のテキストフィールドに新規パスワードを入力して[OK]ボタンをクリックして保存します。
- ④ 必要に応じて、権限レベルをゲスト/オペレーターから選択して[OK]ボタンをクリックして保存します。
- ⑤ 必要に応じて、[ユーザーMAC アドレス]欄に MAC アドレスを入力して[OK]ボタンをクリックして保存します。
- ⑥ 非管理者ユーザーアカウントではユーザー管理インターフェイスの  ボタンをクリックして権限編集することもできます。

18.9 ユーザーの削除

管理者ユーザーアカウントは非管理者（オペレーター/ゲスト）ユーザーアカウントを削除する権限を持っています。

- ① [設定] > [ユーザー設定]に移動します。
- ② ユーザー管理リストの削除したいユーザーの削除欄にある[削除]アイコンをクリックし、選択したユーザーアカウントを削除します。

18.10 POS 機能（未サポート）

 [メニュー] >  [設定] に [POS 機能] という項目がありますが、本機はサポートしていません。

特記：

POS 機能が動作しないように、デフォルト設定では [有効化] チェックボックスにチェックはついておりません。そのままチェックをつけずにご使用ください。



図：POS 設定インターフェイス

19. 付録

19.1 仕様

入力	カメラ入力	16 ch
	入力帯域	最大 160 Mbps
	出力帯域	最大 256 Mbps
出力	HDMI 出力解像度	4K (3840×2160)/60Hz、4K (3840×2160)/30Hz 2K (2560×1440)/60Hz 1920×1080p/60Hz、1600×1200/60Hz 1280×1024/60Hz、1280×720/60Hz 1024×768/60Hz
	VGA 出力解像度	1920×1080/60Hz、1280×1024/60Hz 1280×720/60Hz、1024×768/60Hz
その他	録画画素数	最大 1200 万画素
	圧縮方式	H. 265+/H. 265/H. 264+/H. 264/MPEG4
	同時再生	2ch—12MP (20fps) 4ch—8MP (25fps) 8ch—4MP (30fps) 16ch—1080P (30fps)
	対応 プロトコル	TCP/IP, DHCP, DNS, DDNS, NTP, SADP, SMTP, UPnP, HTTPS
	インターフェイス	RJ45 10M/100M/1000Mbps Ethernet : 1 100Mbps PoE Ethernet : 16 USB 2.0 : 1 , USB 3.0 : 1
HDD	SATA	2
	ハードディスク	12TB ≪6TB×2 (冗長化対応) ≫

基本	電源	AC 100V
	PoE	(IEEE802.3af/at 対応) 給電ポート 16 口 (合計 200 W 以下)
	使用温度環境	0°C~40°C
	使用湿度環境	10% ~ 90%
	消費電力(最大)	280 W
	サイズ	約 385 × 315 × 52mm (背面の突起物含まず)
	重量	約 4.1 kg

19.2 トラブルシューティング

●正常に起動した後、モニタに画像が表示されない。

[可能性のある原因]:

- ① VGA または HDMI が接続されていない。
- ② 接続ケーブルが破損している。
- ③ モニタの入力モードが間違っている。

[対策]:

- ① NVR が HDMI または VGA ケーブルを介してモニタに接続されていることを確認して下さい。接続されていなければ、NVR を HDMI または VGA ケーブルを介してモニタに接続して再起動してください。
- ② 再起動してもモニタに画像が表示されない場合は、接続したケーブルに問題がないかどうかをチェックし、ケーブルを交換して再度接続してください。
- ③ モニタの入力モードが正しいことを確認してください。モニタの入力モードが NVR の出力モードと一致している（たとえば、NVR の出力モードが HDMI 出力である場合は、モニタの入力モードは HDMI 入力でなければならない）かを確認してください。一致していない場合、モニタの入力モードを変更してください。たとえば、1980x1080 に対応していないモニタの HDMI 入力端子に、HDMI 出力 1920x1080 で設定した NVR を接続しても出力されません。その場合、モニタの VGA 入力端子に NVR の VGA 出力端子を接続してみてください。工場出荷時の HDMI/VGA 出力解像度はともに 1024x768 になります。

●新規に購入した NVR を起動すると「ビービービービビ」という警告音が鳴る。

[可能性のある原因]:

- ① HDD が初期化されていない。
- ② HDD が破損している。

[対策]:

- ① HDD が初期化されていることを確認します。

[メニュー] > [HDD] > [一般的なコントロール]に移動します。

HDD のステータスが「未初期化」である場合、対応する HDD のチェックボックスにチェックし、[初期化]ボタンをクリックしてください。

- ② HDD に問題がないか確認します。

[メニュー] > [HDD] > [一般的なコントロール]に移動します。

HDD が検出されない、またはステータスが「異常」の場合は、必要に応じて、専用の HDD を交換してください。

●プライベートプロトコルを介して接続しても、IP カメラのステータスが「切断」として表示される。[メニュー] > [カメラ] に移動し、[IP カメラ]タブでステータス情報を取得できます。

[可能性のある原因]:

- ① IP カメラを追加する際に設定したパラメータが間違っている。
- ② 帯域幅の不足

[対策]

- ① 設定パラメータが正しいことを確認します。

[メニュー] > [カメラ]に移動します。編集アイコンをクリックし、IP アドレス、プロトコル、管理ポート、ユーザー名、およびパスワードなどのパラメータが接続している IP カメラと同じであることを確認します。

- ②帯域幅が十分であるかどうかを確認します。

[メニュー] > [メンテナンス] > [ネットワーク検出] の[ネットワークスタット]タブを選択します。

アクセス帯域幅の使用状況を確認し、帯域幅の合計が上限に達しているか確認します。 YC-R0814 の入力帯域幅上限は 80Mbps になります。

●IPカメラが頻繁にオンラインとオフラインに切り替わり、ステータスが「切断」と表示される。

[可能性のある原因]:

- ① NVR と IP カメラのバージョンに互換性がない。
- ② IP カメラの電力供給が不安定。
- ③ NVR と IP カメラ間のネットワークが不安定。

[対策]:

- ① NVR と IP カメラのバージョンに互換性があることを確認します。

[メニュー] > [カメラ]に移動し、接続されている IP カメラのファームウェアのバージョンを表示します。

[メニュー] > [メンテナンス] > [システム情報] > [デバイス情報]に移動し、デバイスのファームウェアのバージョンを表示します。互換性確認についてはサービスにお問い合わせください。

- ② IP カメラの電力供給が安定しているか確認します。 [メニュー] > [カメラ] へ移動し、[PoE Configuration]タブをクリックし、PoE 電源インジケータが正常であることを確認します。

- ③ IP カメラとデバイスとの間のネットワークが安定しているか確認します。

・設定パラメータが正しいことを確認します。

[メニュー] > [カメラ]に移動します。編集アイコンをクリックし、IP アドレス、プロトコル、管理ポート、ユーザー名、およびパスワードなどのパラメータが接続している IP カメラと同じであることを確認します。

・帯域幅が十分であるかどうかを確認します。

[メニュー] > [メンテナンス] > [ネットワーク検出] の[ネットワークスタット]タブを選択します。アクセス帯域幅の使用状況を確認し、帯域幅の合計が上限に達しているか確認します。 YC-R1618 の入力帯域幅上限は 160Mbps になります。

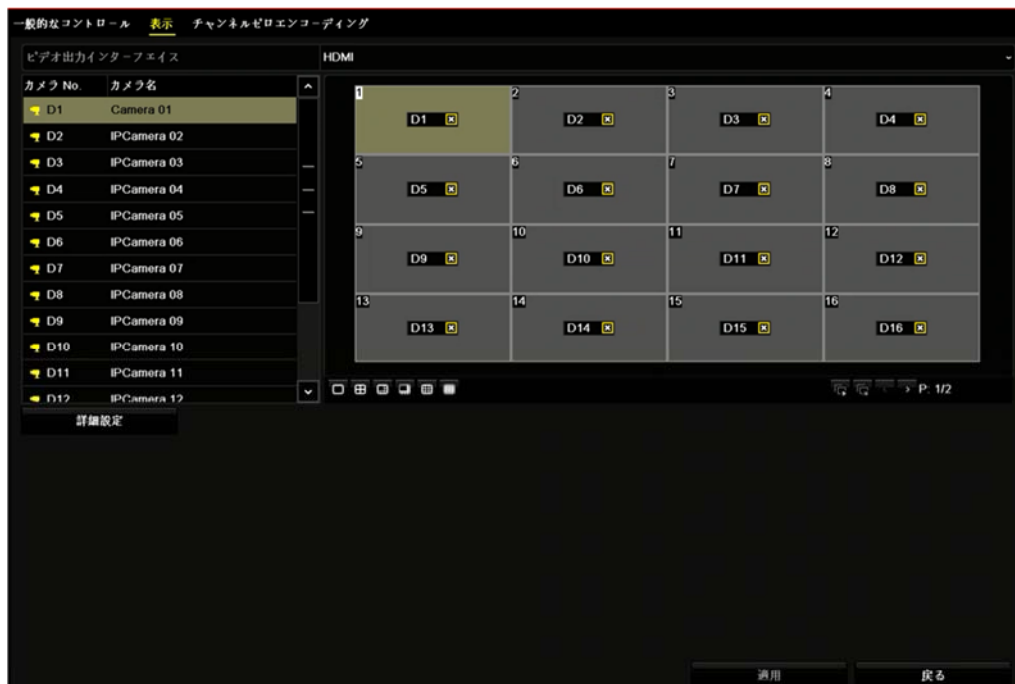
- NVR にモニタが接続されていない状態で、IP カメラをウェブブラウザ上で遠隔にデバイスに接続すると、ステータスは「接続」と表示される。この状態から NVR を VGA または HDMI ケーブルでモニタに接続し、NVR を再起動すると、画面は黒くなりマウスカーソルが表示される。
- 起動前に NVR を VGA または HDMI ケーブルでモニタに接続し、IP カメラを NVR に直接またはリモートに接続すると、IP カメラのステータスは「接続」と表示される。この状態からデバイスを CVBS に接続すると黒い画面になる。

[可能性のある原因]:

ライブビューのチャンネル表示設定があっていない。

[対策]:

[メニュー] > [設定] > [ライブ表示] へ移動し、[表示] タブをクリックして移動します。必要に応じてビデオ出力インターフェイスをドロップダウンリストから選択します。表示させたいチャンネルが有効になるように[カメラ No.] アイコンをクリック、もしくは[全チャンネル表示開始] アイコンをクリックします。



図：ライブ表示設定

注記：

- ・ 表示設定はデバイスのローカル操作でのみ設定可能です。
- ・ 出カインターフェイスごとに個別のカメラ表示順とウィンドウ分割モードを設定できます。「D1」や「D2」といった番号表示はチャンネル番号を表しており、「X」は選択したウィンドウに対する画像出力がないことを意味します。

●ローカルのビデオ出力でライブビュー表示がスタックする

[可能性のある原因]：

- ① NVR と IP カメラの間のネットワーク不良により、送信中にパケットロスが発生している。
- ② フレームレートがリアルタイムのフレームレートに達していない。

[対策]：

- ① NVR と IP カメラとの間のネットワークが接続されていることを確認します。
- ② フレームレートがリアルタイムフレームレートであるかどうか確認します。

[メニュー] > [設定] > [ライブ表示] に移動し、[チャンネルゼロエンコーディング] タブをクリックして移動します。[チャンネルゼロエンコーディング] のチェックボックスにチェックをつけると編集できるので、フレームレートをフル（フル）フレームに設定します。

- Internet Explorer またはプラットフォームソフトウェア上でリモートビデオ出力を行うとライブビューがスタックする。

[可能性のある原因]:

- ① NVR と IP カメラの間のネットワーク不良により、送信中にパケットロスが発生している。
- ② PC の CPU、メモリなどを含むハードウェアの性能が十分でない。

[対策]:

- ① デバイスと PC との間のネットワークが接続されていることを確認します。
 - 1) スタートメニューからコマンドウィンドウを開きます。または「Windows+R」のショートカットキーで開くこともできます。
 - 2) ping コマンドを使用してデバイスに大きなパケットを送り、“ping 192.168.0.0 -l 1472 -f” コマンドを実行し、(IP アドレスは実際の状態に応じて変化する)、パケットロスがあるかどうか確認します。

注記:

Ctrl と C を同時に押すことで ping コマンドを終了できます。

- ② PC のハードウェアが十分であるかどうかを確認します。

Ctrl、Alt および Delete を同時に押し、下図に示すような Windows のタスクマネジメントインターフェイスに入ります。パフォーマンスタブを選択し、CPU とメモリのステータスをチェックします。リソースが十分でない場合、不要なプロセスをいくつか終了してください。

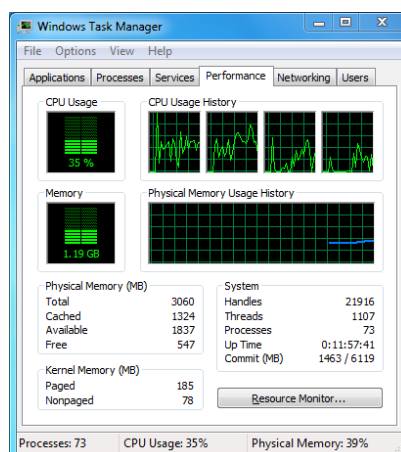


図: Windows タスクマネジメントインターフェイス

- デバイスが単一または複数のチャンネルを再生している際に、画像の動きが止まる。

[可能性のある原因]:

- ① フレームレートがリアルタイムフレームレートに達していない。
- ② NVR のハードウェアがその再生に十分でない。

[対策]:

- ① フレームレートがリアルタイムフレームレートであるかどうか確認します。[メニュー] > [設定] > [ライブ表示] に移動し、[チャンネルゼロエンコーディング] タブをクリックして移動します。[チャンネルゼロエンコーディング] のチェックボックスにチェックをつけると編集できるので、フレームレートをフル（フル）フレームに設定します。
- ② NVR のハードウェアがその再生に十分でない場合、[メニュー] > [設定] > [ライブ表示] に移動し、[チャンネルゼロエンコーディング] タブをクリックして移動します。[チャンネルゼロエンコーディング] のチェックボックスにチェックをつけると編集できるので、最大ビットレート (Kbps) を下げます。または、再生チャンネル数を減らすために、[メニュー] > [設定] > [ライブ表示] へ移動し、[表示] タブをクリックして移動します。[カメラ No.] アイコンをクリックして、チャンネルを無効にすることで表示チャンネル数を減らします。

●NVR の HDD に録画ファイルが見つからず、「録画ファイルが見つかりません」というプロンプトが表示される。

[可能性のある原因]:

- ① システムの時刻設定が正しくない。
- ② 検索条件が正しくない。
- ③ HDD エラーが発生したか、HDD が検出されない。

[対策]:

- ① システムの時刻設定が正しいことを確認します。

[メニュー] > [設定] > [一般的なコントロール]に移動し、「システム時間」が正しいことを確認します。

- ② 検索条件が正しいことを確認します。[メニュー] > [再生]に移動し、チャンネルと時刻が正しいことを確認します。

- ③ HDD ステータスが正常であることを確認します。

[メニュー] > [HDD] > [一般的なコントロール]に移動して HDD ステータスを表示し、HDD が検出されており、読み書きが正しく行えることを確認します。

20. お問い合わせ窓口

修理のご相談など

〔修理ご相談窓口〕（沖縄地区を除く）

シャープマーケティングジャパン株式会社



0570-006-008

全国どこからでも一律料金でご利用いただけます。

携帯電話からもご利用いただけます。

〔受付時間〕月曜～土曜：9:00～17:40

（日曜・祝日など弊社休日は休ませていただきます。）

PHS・IP電話をご利用の方は…

043-332-9957（東日本）

06-6794-9677（西日本）

※本資料は予告なく変更になることがあります。

シャープ株式会社

本社

〒590-8522 大阪府堺市堺区匠町1番地

先進設備開発本部

〒581-8581 大阪府八尾市跡部本町4丁目1番33号

YCR162CUSM1901R002